



# Intel W790 シリーズ マザーボード

## ソフトウェア / BIOS セットアップ ガイド

バージョン 1.0

2023 年 3 月発行

Copyright©2023 ASRock INC. 無断複写・転載を禁じます。

バージョン 1.0  
2023 年 3 月発行

Copyright©2023 ASRock INC. 無断複写・転載を禁じます。

## 著作権について：

当文書のいかなる部分も、ASRock の書面による同意なしに、バックアップを目的とした購入者による文書のコピーを除いては、いかなる形式や方法によっても、複写、転載、送信、または任意の言語へ翻訳することは禁じます。

当文書に記載されている製品名および企業名は、それぞれの企業の登録商標または著作物であることもあり、権利を侵害する意図なく、ユーザーの便宜を図って特定または説明のためにのみ使用されます。

## 免責事項：

当文書に記載されている仕様および情報は、情報提供のみを目的として付属されており、予告なく変更する場合があります。その整合性や正確性について、ASRock がなんらの確約をするものではありません。ASRock は、当文書での誤記や記載漏れについて一切の責任を負いかねます。

本文書の内容について、ASRock は、明示または黙示にも、黙示の保証、商品性の条件、または特定の目的への適合性を含め、かつそれらに限定されず、いかなる種類の保証もいたしません。

いかなる状況においても、たとえ ASRock が当文書や製品の欠陥や誤りに起因する損害の可能性を事前に知らされていたとしても、ASRock、取締役、役員、従業員、または代理人は、いかなる間接的、専門的、偶発的、または必然的な損害（利益の損失、事業の損失、データの損失、事業の中断などを含む）への責任を負いかねます。

## 連絡先情報：

ASRock に連絡する必要がある場合、または、ASRock に関する詳細情報をお知りになりたい場合は、ASRock のウェブサイト <http://www.asrock.com> をご覧になるか、または、詳細情報について弊社取扱店までお問い合わせください。技術的なご質問がある場合は、<https://event.asrock.com/tsd.asp> でサポートリクエスト用紙を提出してください。

### **ASRock Incorporation**

電子メール：[info@asrock.com.tw](mailto:info@asrock.com.tw)

### **ASRock EUROPE B.V.**

電子メール：[sales@asrock.nl](mailto:sales@asrock.nl)

### **ASRock America, Inc.**

電子メール：[sales@asrockamerica.com](mailto:sales@asrockamerica.com)

# 内容

第 1 章	はじめに	1
第 2 章	ソフトウェアとユーティリティの操作	2
2.1	自動ドライバー インストーラー (ADI)	2
2.1.1	初めてドライバーをインストールする	2
2.1.2	ドライバーの更新	6
2.2	ASRock ライブ更新と APP ショップ	7
2.2.1	ASRock ライブ更新と APP ショップのインストール	7
2.2.2	UI 概要	8
2.2.3	アプリ	9
2.2.4	BIOS とドライバー	12
2.2.5	設定	13
2.3	ASRock マザーボード ユーティリティ (A-Tuning)	14
2.3.1	ASRock マザーボード ユーティリティ (A-Tuning) のインストール	14
2.3.2	ASRock マザーボード ユーティリティ (A-Tuning) の使用	14
2.4	Nahimic オーディオ	17
第 3 章	UEFI セットアップ ユーティリティ	19
3.1	はじめに	19
3.1.1	BIOS セットアップに入る	19
3.1.2	詳細モード	20
3.1.3	UEFI メニュー バー	20
3.1.4	ナビゲーション キー	21

3.2	Main (メイン) 画面	22
3.3	OC Tweaker (OC 調整) 画面	23
3.4	詳細画面	46
3.4.1	CPU 構成	47
3.4.2	チップセット構成	49
3.4.3	I/O 構成	52
3.4.4	ストレージ構成	53
3.4.5	NVMe 構成	55
3.4.6	Intel(R) Thunderbolt	56
3.4.7	ACPI 構成	57
3.4.8	USB 構成	58
3.4.9	トラステッド コンピューティング	59
3.4.10	ネットワーク スタック構成	62
3.4.11	MEBx	64
3.5	ハードウェア ヘルス イベント監視画面	65
3.6	ツール	70
3.7	起動画面	71
3.8	セキュリティ画面	73
3.9	終了画面	78

# 第 1 章 はじめに

このユーザー ガイドは、すべての Intel W790 マザーボード シリーズの完全なセットアップ ガイドです。このマニュアルのスクリーンショットは参考用です。設定とオプションは、購入したマザーボードによって異なる場合があります。

このドキュメントの第 1 章では、セットアップ ガイドの概要を説明します。第 2 章には、ソフトウェアとユーティリティの操作ガイドが含まれています。第 3 章には、BIOS セットアップの構成ガイドが含まれています。

## ソフトウェア セットアップ ガイド

- 自動ドライバー インストーラー (ADI)
- ASRock ライブ更新と APP ショップ
- ASRock マザーボード ユーティリティ (A-Tuning)
- Nahimic オーディオ

## BIOS セットアップ ガイド

- UEFI セットアップ ユーティリティ



マザーボードの仕様とソフトウェアは更新されることがあるため、このマニュアルの内容は予告なしに変更することがあります。このマニュアルの内容に変更があった場合には、更新されたバージョンは、予告なく ASRock の Web サイトから入手できるようになります。このマザーボードに関する技術的なサポートが必要な場合には、ご使用のモデルについての詳細情報を、当社の Web サイトで参照してください。ASRock Web サイト <http://www.asrock.com>。

## 第2章 ソフトウェアとユーティリティの操作

### 2.1 自動ドライバー インストーラー (ADI)

ドライバーのインストールに、光学ドライブまたはドライバー DVD は不要になりました。ASRock マザーボードには、すでに BIOS ROM にプリパックされたイーサネットドライバーが含まれています。オペレーティング システムのインストールが完了したら、自動ドライバー インストーラーを使用して、必要なすべてのドライバーを自動的にダウンロードしてインストールします。

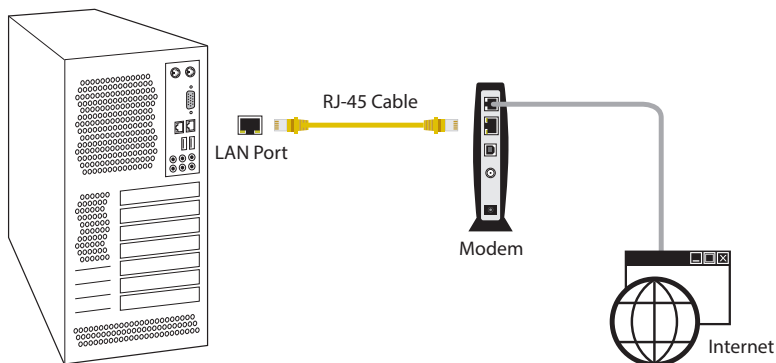
#### 2.1.1 初めてドライバーをインストールする

指示に従って、自動ドライバー インストーラーから必要なすべてのドライバーをインストールします。

以下の手順では、インターネット アクセスが必要ですのでご注意ください。

##### 手順 1

Windows OS をインストールしたら、コンピューターをインターネットに接続します。



## 手順 2

システムを起動すると、画面の右下隅に「Do you want to one-step-install the latest drivers simply from ASRock Auto Driver Installer? (ASRock 自動ドライバー インストーラーから簡単に最新のドライバーをワンステップでインストールしますか?)」という通知がポップアップ表示されます。

「Yes (はい)」を選択して自動ドライバー インストーラーをインストールします。  
「No (いいえ)」を選択してインストールをスキップします。



1. 自動ドライバー インストーラーは、BIOS のメニューの「Auto Driver Installer (自動ドライバー インストーラー)」項目が「Enabled (有効)」に設定されている場合にのみ、ユーザーがドライバーをインストールするために自動的にポップアップ表示します。項目はデフォルトで有効になっています。したがって、初めてのユーザーは、BIOS で設定を変更する必要はありません。
2. 自動ドライバー インストーラーを使用するには、利用可能なインターネット接続が前提条件です。インターネットなしでシステムを起動すると、自動ドライバー インストーラーは表示されません。コンピューターをインターネットに接続し、数秒待つと、自動ドライバー インストーラーがポップアップ表示されます。
3. 手順 2 で「No (いいえ)」を選択してインストールをスキップすると、自動ドライバー インストーラーは削除されます。アプリケーションを再度実行する場合は、BIOS 設定で「Auto Driver Installer (自動ドライバー インストーラー)」項目を有効にしてください。

## 手順 3

完了すると、デスクトップに自動ドライバー インストーラー アイコンが表示され、自動ドライバー インストーラーが表示されます。



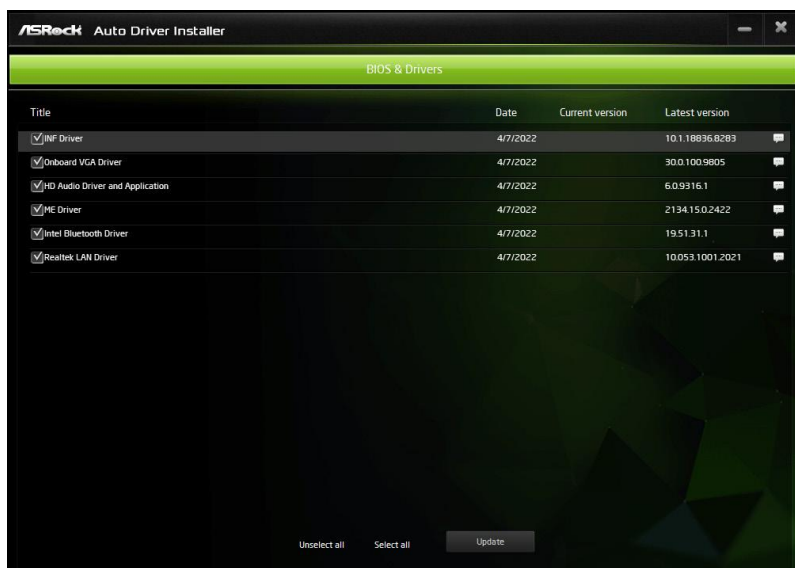
#### 手順 4

自動ドライバー インストーラー パネルには、マザーボードがサポートする利用可能なすべてのドライバーが一覧表示されます。インストールするドライバーを 1 つ以上選択します。

「Select All (すべて選択)」をクリックすると、すべての項目が選択されます。

「Unselect All (すべての選択を解除)」をクリックして、すべての選択を削除します。

「Update (更新)」をクリックして、ドライバーのダウンロードとインストールを開始します。



インストールするドライバーがない場合は、「Finish (完了)」をクリックして終了します。アプリケーションを再度実行する場合は、BIOS 設定で「Auto Driver Installer (自動ドライバー インストーラー)」項目を有効にしてください。



**手順 5**

「During installation, your system may reboot and continue installing remaining item(s) (インストール中にシステムが再起動し、残りの項目のインストールを続行する可能性があります)」というメッセージが表示されます。

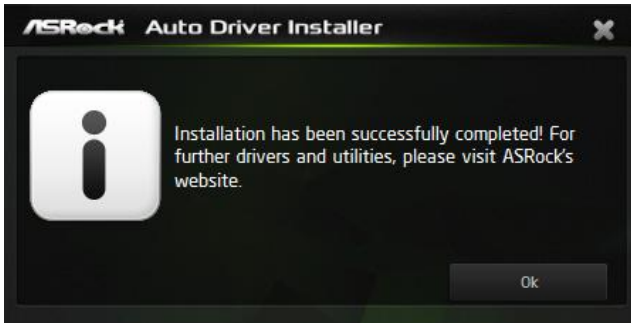
「Yes ( はい )」をクリックして続行します。

「No ( いいえ )」をクリックして終了します。

**手順 6**

すべてのドライバーが正常にインストールされると、「Installation has been successfully completed! For further drivers and utilities, please visit ASRock's website. (インストールが正常に完了しました! その他のドライバーとユーティリティについては、ASRock の Web サイトにアクセスしてください。)」というポップアップメッセージが表示されます。

「OK」をクリックして手続きを完了します。



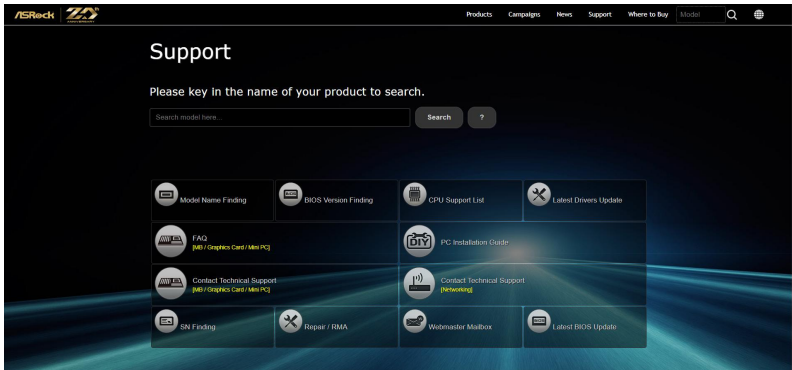
ドライバーのインストールが完了すると、自動ドライバー インストーラー ツールがコンピューターから自動的にアンインストールされます。



ドライバーのインストール後、自動ドライバー インストーラーは削除されます。アプリケーションを再度実行する場合は、BIOS 設定の「Tool ( ツール )」メニューに移動し、「Auto Driver Installer ( 自動ドライバー インストーラー )」項目を「Enabled ( 有効 )」に設定してください。

## 2.1.2 ドライバーの更新

ドライバーを更新すると、システムが問題なく正常に動作することが保証されます。ドライバーを更新するには、ASRock の Web サイト (<https://www.asrock.com>) にアクセスし、「Support ( サポート )」>「Latest Drivers Update ( 最新のドライバーの更新 )」を選択してください。



## 2.2 ASRock ライブ更新と APP ショップ

ASRock ライブ更新と APP ショップは、ASRock コンピューター用のソフトウェアアプリケーションを購入したりダウンロードできるオンラインストアです。さまざまなアプリケーションとサポートユーティリティを素早く簡単にインストールできます。ASRock ライブ更新と APP ショップを使用すれば、数回クリックするだけで、システムを最適化して、マザーボードを最新の状態に維持できます。

### 2.2.1 ASRock ライブ更新と APP ショップのインストール

ASRock の Web サイトから ASRock ライブ更新と APP ショップ ユーティリティをダウンロードしてください: 「<https://www.asrock.com>」。

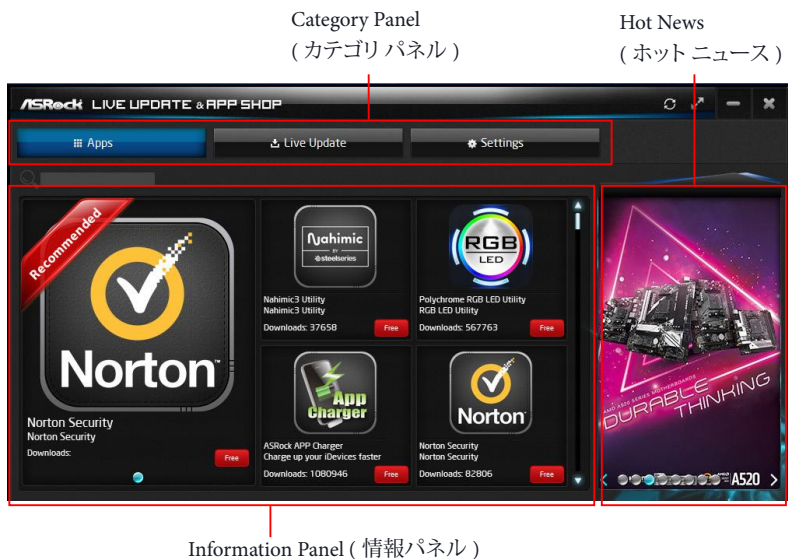
マザーボードの製品ページに移動し、「Support (サポート)」> 「Download (ダウンロード)」を選択して APP ショップをダウンロードします。

Description	OS	Size	Date	Download
Realtek high definition audio driver ver.9231.1_LIAD_WHQL_Nahimic	Windows® 11 64bit	35.5MB	2021/10/12	🇺🇸 Global 🇨🇳 China
AMD chipset driver ver:3.10.22.706	Windows® 11 64bit	50.33MB	2021/11/30	🇺🇸 Global 🇨🇳 China
Killer Lan driver ver:3.0.1506	Windows® 11 64bit	38.8MB	2021/11/08	🇺🇸 Global 🇨🇳 China
AMD RAID/Xpert2 utility ver:9.2.0.158	Windows® 11 64bit	55.4MB	2021/5/31	🇺🇸 Global 🇨🇳 China
SATA Floppy Image_CC ver:9.3.0.296	Windows® 11 64bit	361KB	2022/2/8	🇺🇸 Global 🇨🇳 China
SATA Floppy Image_DID ver:9.3.0.296				
<b>NVMe_DID Supported AMD processors:</b> (Renoir) - AMD Ryzen™ 3000 Series Desktop Processors with Radeon™ Graphics (Renoir) - AMD Ryzen™ 4000 Series Desktop Processors with Radeon™ Graphics (Cezanne) - AMD Ryzen™ 5000 Series Desktop Processors with Radeon™ Graphics	Windows® 11 64bit	361KB	2022/2/8	🇺🇸 Global 🇨🇳 China
VGA driver ver:21.30.02.210727a_0827	Windows® 11 64bit	587MB	2021/11/08	🇺🇸 Global 🇨🇳 China
ASRock Motherboard Utility ver:3.0.466	Windows® 11 64bit	59.40MB	2022/5/17	🇺🇸 Global 🇨🇳 China
APP Shop ver:1.0.02	Windows® 11 64bit	3.91MB	2021/5/31	🇺🇸 Global 🇨🇳 China
Nahimic3 utility ver:210913_AP04	Windows® 11 64bit	85.3MB	2021/11/18	🇺🇸 Global 🇨🇳 China
Norton Security ver:22.21.5	Windows® 11 64bit	232MB	2021/11/08	🇺🇸 Global 🇨🇳 China
Restart to UEFI ver:1.0.9	Windows® 11 64bit	1.01MB	2021/11/08	🇺🇸 Global 🇨🇳 China
<b>[Beta]</b> ASRock Motherboard Utility ver:3.0.441	Windows® 11 64bit	59.31MB	2021/12/14	🇺🇸 Global 🇨🇳 China

インストール後、デスクトップ上の  をダブルクリックして ASRock ライブ更新と APP ショップ ユーティリティにアクセスします。

\*ASRock ライブ更新と APP ショップからアプリケーションをダウンロードするにはインターネットに接続している必要があります。

## 2.2.2 UI 概要



**Category Panel (カテゴリパネル) :** カテゴリパネルにはいくつかのタブまたはボタンがあります。これらのタブまたはボタンを選択すると、下の情報パネルに關係する情報が表示されます。

**Information Panel (情報パネル) :** 中央にある情報パネルには、現在選りされているカテゴリについてのデータが表示されます。また、ジョブに關係するタスクを実行できます。

**Hot News (ホットニュース) :** ホットニュースセクションにはさまざまな最新ニュースが表示されます。画像をクリックして選りしたニュースの Web サイトを開いて詳しく読むことができます。

## 2.2.3 アプリ

「Apps (アプリ)」タブを選択すると、ダウンロードできるすべてのアプリが画面上に表示されます。

### アプリをインストールする

#### 手順 1

インストールしたいアプリを検索します。



最も推奨されるアプリが画面の左側に表示されます。その他のさまざまなアプリは右側に表示されます。上下にスクロールして一覧にあるアプリを検索してください。

アプリの価格を確認したり、アプリを既にインストールしているかどうかを確認できます。


**Free** - 赤色のアイコンに価格が表示されます。または、アプリが無料の場合は「Free (無料)」と表示されます。

**Installed** - 緑色の「Installed (インストール済み)」アイコンは、アプリがコンピューターにインストールされていることを意味します。

#### 手順 2

アプリアイコンをクリックすると、選択したアプリの詳細情報が表示されます。

### 手順 3

アプリをインストールしたい場合は、赤色のアイコン  をクリックしてダウンロードを開始します。



### 手順 4

インストールが完了すると、右上端に緑色の「Installed (インストール済み)」アイコンが表示されます。



アプリをアンインストールするには、ゴミ箱アイコン  をクリックします。

\* アプリによっては、ゴミ箱アイコンが表示されないことがあります。

## アプリをアップグレードする

アップグレードできるのはインストール済みのアプリのみです。アプリの新しいバージョンがある場合は、インストールしたアプリアイコンの下に「New Version (新しいバージョン)」のマークが表示されます。



### 手順 1

アプリアイコンをクリックすると、詳細情報が表示されます。

### 手順 2

黄色のアイコン  をクリックしてアップグレードを開始します。

## 2.2.4 BIOS とドライバー

### BIOS またはドライバーをインストールする

「BIOS & Drivers (BIOS とドライバー)」タブを選択すると、BIOS またはドライバー用の推奨更新または重要な更新が一覧表示されます。速やかにすべて更新してください。



#### 手順 1

更新する前に項目情報を確認してください。🗨️ をクリックすると、詳細情報が表示されません。

#### 手順 2

更新したい項目を 1 つまたは複数クリックして選択します。

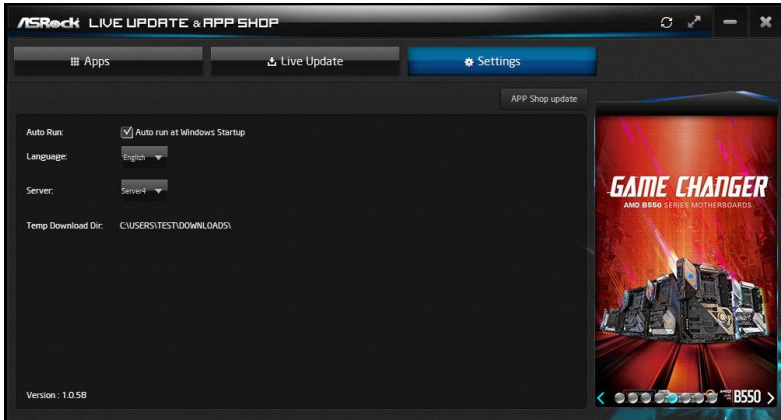
#### 手順 3

「Update (更新)」をクリックして更新処理を開始します。



## 2.2.5 設定

「Setting (設定)」ページで、言語を変更したり、サーバーの場所を選択したり、Windows 起動時に ASRock ライブ更新と APP ショップを自動的に実行するかどうかを決めることができます。




## 2.3 ASRock マザーボード ユーティリティ (A-Tuning)

ASRock マザーボード ユーティリティ (A-Tuning) は ASRock の多目的ソフトウェアスイートです。新しいインターフェースを搭載し、数々の新しい機能が追加されており、ユーティリティが改善されました。

### 2.3.1 ASRock マザーボード ユーティリティ (A-Tuning) のインストール

ASRock マザーボード ユーティリティ (A-Tuning) を ASRock ライブ更新と APP ショップからダウンロードできます。

ASRock の Web サイトからユーティリティをダウンロードすることもできます：  
「<https://www.asrock.com>」。マザーボードの製品ページに移動し、「Support ( サポート )」>「Download ( ダウンロード )」を選択して、「ASRock マザーボード ユーティリティ」をダウンロードします。

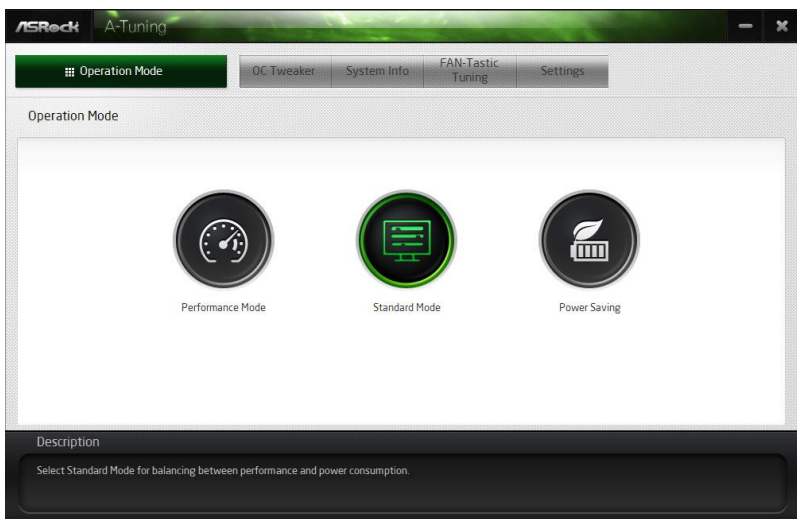
インストール後、デスクトップに「ASRock マザーボード ユーティリティ (A-Tuning)」アイコンが表示されます。「ASRock マザーボード ユーティリティ (A-Tuning)」アイコン  をダブルクリックすると、ASRock マザーボード ユーティリティ (A-Tuning) のメインメニューが表示されます。

### 2.3.2 ASRock マザーボード ユーティリティ (A-Tuning) の使用

ASRock マザーボード ユーティリティ (A-Tuning) のメインメニューには次の 5 つのセクションがあります：Operation Mode ( 操作モード )、OC Tweaker ( OC 調整 )、System Info ( システム情報 )、FAN-Tastic Tuning ( FAN-Tastic チューニング )、Settings ( 設定 )。

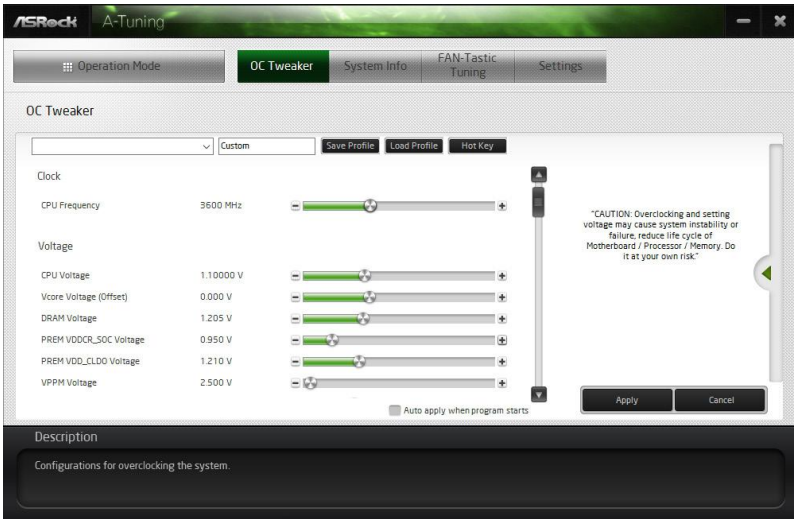
#### Operation Mode ( 操作モード )

コンピューターの操作モードを選択します。



## OC Tweaker (OC 調整)

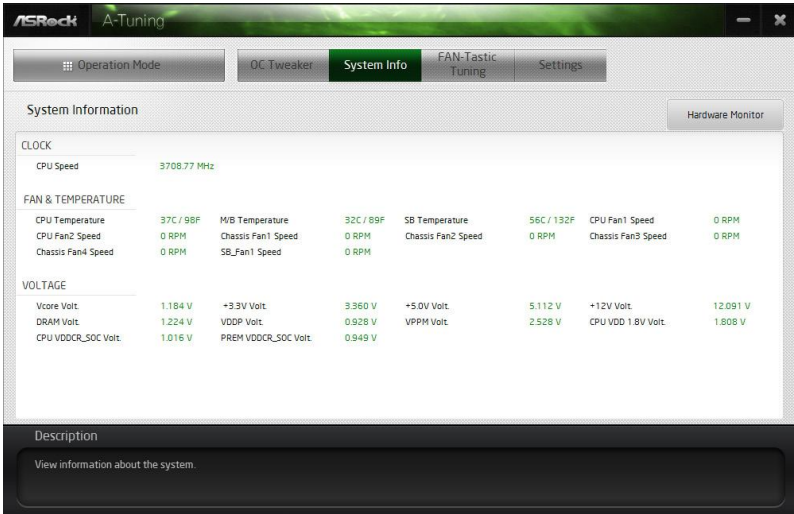
システムのオーバークロック構成。



## System Info (システム情報)

システムに関する情報を表示します。

\* モデルによっては、システム ブラウザー タブが表示されないことがあります。



## FAN-Tastic Tuning (FAN-Tastic 調整)

グラフを使用して、最大 5 種類のファン速度を構成できます。割り当てられた温度に達すると、ファンは次の速度レベルへと自動的にシフトします。



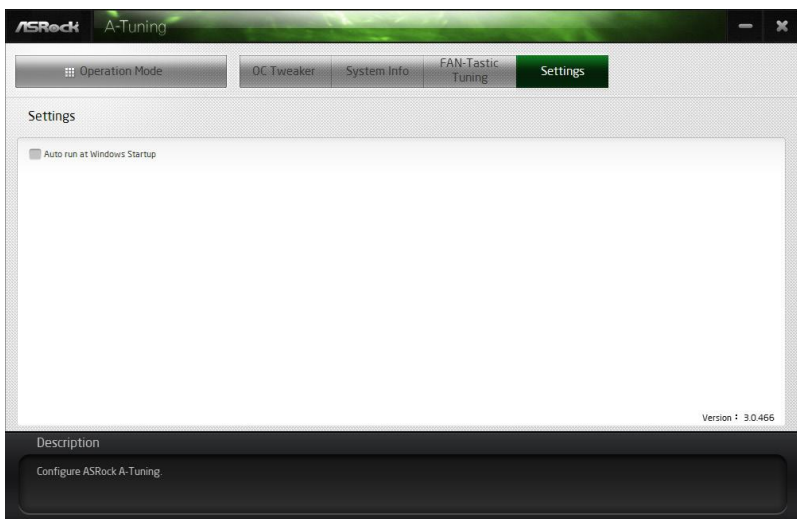
The screenshot shows the 'FAN-Tastic Tuning' window in ASRock A-Tuning. It features a graph with 'FAN Speed (%)' on the y-axis (0-100) and 'Temperature (°C)' on the x-axis (0-100). A line graph shows five points: (40, 50), (50, 60), (60, 70), (70, 80), and (80, 100). To the right is a table:

Fan Power	Fan Speed
100%	N/A RPM
90%	N/A RPM
80%	N/A RPM
70%	N/A RPM
60%	N/A RPM
50%	N/A RPM
40%	N/A RPM
30%	N/A RPM
20%	N/A RPM
10%	N/A RPM

Below the table is a checkbox 'Auto apply when program starts' and 'Apply' and 'Cancel' buttons. A 'Description' box at the bottom states: 'Configure different fan speeds for respective temperatures using the graph. The fans will automatically shift to the next speed level when the assigned temperature is met.'

## Settings (設定)

ASRock マザーボードユーティリティ (A-Tuning) を構成します。Windows オペレーティングシステムの起動時に ASRock マザーボードユーティリティ (A-Tuning) を起動する場合は、「Auto run at Windows Startup (Windows 起動時に自動実行)」をクリックして選択します。



The screenshot shows the 'Settings' window in ASRock A-Tuning. It has a single checkbox 'Auto run at Windows Startup' which is checked. At the bottom, a 'Description' box says 'Configure ASRock A-Tuning'. The version number 'Version : 3.0.466' is visible in the bottom right corner.

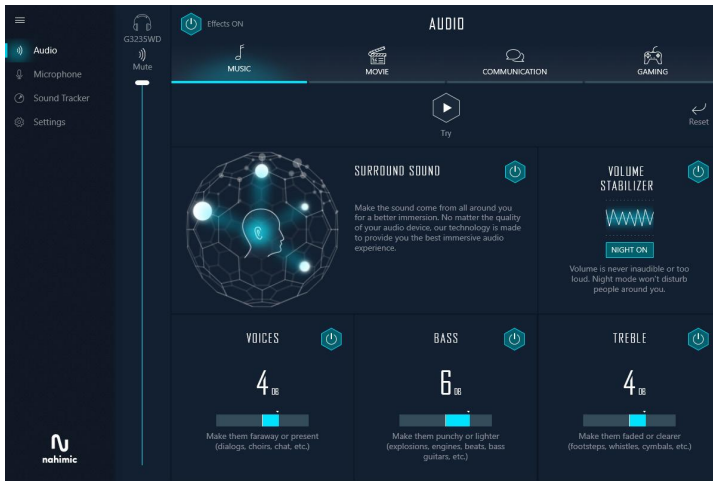
## 2.4 Nahimic オーディオ

Nahimic オーディオ ソフトウェアは、素晴らしいハイデフィニション サウンドを提供して、システムのオーディオおよびボイス性能を向上させます。Nahimic オーディオ インターフェースは次の 4 つのタブで構成されます：Audio (オーディオ)、Microphone (マイク)、Sound Tracker (サウンドトラッカー)、Settings (設定)。

ASRock ライブ更新と APP ショップからこのユーティリティをダウンロードしてください。

ASRock の Web サイトからユーティリティをダウンロードすることもできます：

「<https://www.asrock.com>」。マザーボードの製品ページに移動し、「Support (サポート)」>「Download (ダウンロード)」を選択して Nahimic ユーティリティをダウンロードします。



Nahimic オーディオには 4 つの機能があります：

番号	機能	説明
1	Audio (オーディオ)	このタブから、現在のオーディオ デバイスを消音にしたり、4 つの工場出荷時オーディオ プロファイルから選択したり、すべてのオーディオ効果をオン / オフにしたり、または、現在のプロファイルをデフォルト設定に復元したり、さらに、Surround Sound (サラウンドサウンド) およびさまざまな機能にアクセスできます。
2	Microphone (マイクフォン)	このタブから、現在のマイク デバイスを消音にしたり、2 つの工場出荷時マイク プロファイルから選択したり、すべてのマイク効果効果をオン / オフにしたり、または、現在のプロファイルをデフォルト設定に復元したり、さらに、Static Noise Suppression (静的ノイズ抑制) およびさまざまな機能にアクセスできます。

- 
- |   |                                  |   |
|---|----------------------------------|---|
| 3 | Sound Tracker<br>(サウンド<br>トラッカー) | Sound Tracker (サウンドトラッカー) は、ゲーム中に、音源の位置を視覚的に表示します。サウンドの方向を示すダイナミックセグメントで表示されます。ダイナミックセグメントが不透明なほどサウンドが強くなります。 |
| 4 | Settings<br>(設定)                 | このタブから、ソフトウェアのすべての設定と情報にアクセスできます。   |

## 第3章 UEFI セットアップ ユーティリティ

### 3.1 はじめに

ASRock UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) は、高度な表示インターフェースで調整しやすいオプションを提供する BIOS ユーティリティです。UEFI システムは USB マウスで動作し、ユーザーに高速で洗練されたエクスペリエンスを提供します。

この BIOS ユーティリティは、システムの起動時に POST (Power-On Self-Test) を実行したり、システムのハードウェア パラメーターを記録したり、オペレーティングシステムをロードすることができます。マザーボードのバッテリーは、システムの電源がオフになっているときに CMOS に必要な電力を供給し、UEFI ユーティリティで構成された値は CMOS に保持されます。

BIOS 設定が不適切であると、システムが不安定になったり、誤動作したり、起動に失敗したりする可能性があることに注意してください。UEFI のデフォルト構成を変更しないこと、あるいはトレーニングを受けたサービス担当者の支援がある場合のみ設定を変更することを強くお勧めします。

設定を変更した後、システムが不安定になったり、起動に失敗した場合は、CMOS 値をクリアして、ボードをデフォルト値にリセットしてみてください。手順については、マザーボードのマニュアルを参照してください。

#### 3.1.1 BIOS セットアップに入る

UEFI セットアップ ユーティリティは、コンピューターに電源を入れた直後に <F2> または <Del> を押すことによって起動できます。ユーティリティを起動しなければ、電源投入時セルフテスト (POST) が通常のテストを開始します。POST の後に UEFI セットアップ ユーティリティを開始するには、<Ctrl> + <Alt> + <Delete> または本体のリセットボタンを押して、システムを再起動します。システムをシャットダウンした後、再度電源を入れても、ユーティリティを起動することができます。

このセットアップガイドでは、UEFI セットアップ ユーティリティを使用して、サポートされているすべてのシステムを構成する方法について説明します。このマニュアルのスクリーンショットは参考用です。UEFI 設定とオプションは、異なる BIOS リリース バージョンまたは取り付けられている CPU によって異なる場合があります。詳細な画面、設定、オプションについては、購入したマザーボードの実際の BIOS バージョンを参照してください。

### 3.1.2 詳細モード

「Advanced Mode (詳細モード)」では、BIOS 設定を構成するためのより多くのオプションが提供されます。詳細な構成については、次のセクションを参照してください。

EZ モードにアクセスするには、<F6> を押すか、画面の右上隅にある「EZ Mode (EZ モード)」ボタンをクリックします。

### 3.1.3 UEFI メニュー バー

画面上部には、以下が並んだメニューバーがあります：

<b>Main (メイン)</b>	システムの時間 / 日付情報の設定
<b>OC Tweaker (OC 調整)</b>	オーバークロック構成
<b>Advanced (詳細)</b>	システムの詳細構成
<b>H/W Monitor (H/W モニター)</b>	現在のハードウェアステータスを表示
<b>Tool (ツール)</b>	便利なツール
<b>Boot (起動)</b>	起動設定および起動の優先順位の構成
<b>Security (セキュリティ)</b>	セキュリティ設定
<b>Exit (終了)</b>	現在の画面または UEFI セットアップ ユーティリティを終了



UEFI ソフトウェアは常に更新されているため、以下の UEFI セットアップ画面と説明は参照のみを目的としています。また、最新の BIOS とは異なる場合があります。画面に表示される内容と正確に一致しない場合があります。



BIOS 設定の調整、アンタイド オーバークロックテクノロジーの適用、サードパーティのオーバークロック ツールの使用などを含む、オーバークロックには、一定のリスクを伴いますのでご注意ください。オーバークロックするとシステムが不安定になったり、システムのコンポーネントやデバイスが破損することがあります。ご自分の責任で行ってください。弊社では、オーバークロックによる破損の責任は負いかねますのでご了承ください。



### 3.1.4 ナビゲーション キー

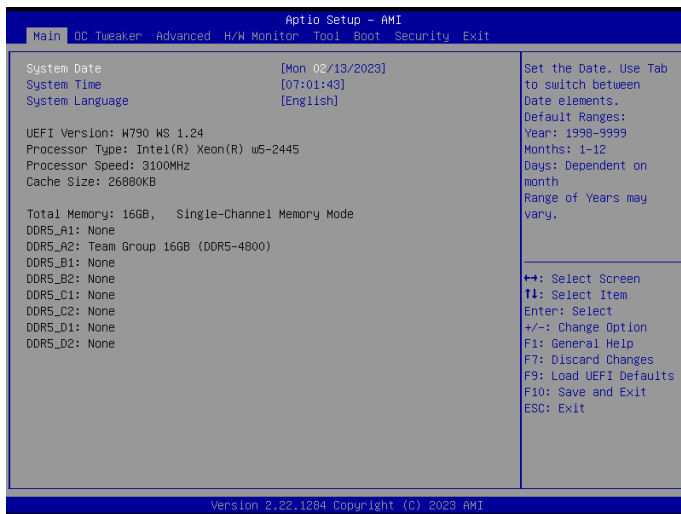
メニューバーのカテゴリを選択するには、<←>キーまたは<→>キーを使用します。カーソルを上下に動かし項目を選択するには、<↑>キーまたは<↓>キーを使用し、<Enter>を押してサブ画面に移動します。マウスでクリックして、必要な項目を選択することもできます。

各ナビゲーション キーの説明は、以下の表でご確認ください。

ナビゲーション キー	説明
+/-	選択した項目のオプションを変更
<Tab>	次の機能に切替え
<PGUP>	前のページへ
<PGDN>	次のページへ
<HOME>	画面の最初へ
<END>	画面の最後へ
<F1>	一般的なヘルプ画面を表示
<F7>	変更をキャンセルして、セットアップユーティリティを終了
<F9>	すべての設定で最適な既定値を読み込み
<F10>	変更を保存して、セットアップユーティリティを終了
<F12>	プリントスクリーン
<ESC>	終了画面へジャンプまたは現在の画面を終了

## 3.2 Main (メイン) 画面

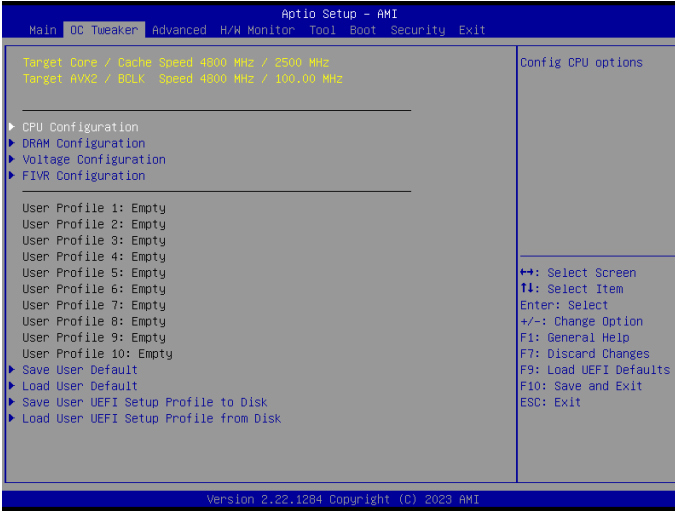
UEFI セットアップ ユーティリティに入ると、メイン画面が現れ、システムの概要が表示されます。



UEFI ソフトウェアは、常に更新されているため、以下の設定画面および説明は参照のみを目的としており、実際の画面と必ずしも一致しない場合もあります。オプションは、マザーボードの機能によっても異なる場合があります。

### 3.3 OC Tweaker (OC 調整) 画面

OC 調整画面では、オーバークロック機能を設定できます。



#### CPU Configuration (CPU 構成)

##### CPU Core Ratio (CPU コア比率)

CPU 速度は、CPU P-Core Ratio (CPU P コア比率) に BCLK を乗じて決定されます。CPU P-Core Ratio (CPU P コア比率) を上げると、他のコンポーネントのクロック速度に影響を与えることなく、内部 CPU クロック速度が上がります。

構成オプション: [Auto (自動)] [All Core (すべてのコア)] [Per Core (コアごと)] [Specific Per Core (コアごとの特定)]

##### AVX2 Ratio Offset (AVX2 比率オフセット)

AVX2 Ratio Offset (AVX2 比率オフセット) は、AVX ワークロードの CPU Ratio (CPU 比率) からの負のオフセットを指定します。AVX は、AVX 比率を下げても SSE ワークロードの可能な最大比率を確保する、よりストレスの多いワークロードです。

##### CPU Cache Ratio (CPU キャッシュ比率)

CPU 内部バス速度比率。最大値は CPU Ratio (CPU 比率) と同じである必要があります。

##### Min Cache Ratio (最小キャッシュ比率)

CPU 内部バス速度最小比率。キャッシュ比率を P-Core ratio for non-K CPU (非 K CPU の P-Core 比率) に合わせるには、Min Cache Ratio Limit (最小キャッシュ比率制限) を CPU Cache Ratio (CPU キャッシュ比率) と同期してみてください。

## CPU BCLK Frequency (CPU BCLK 周波数)

CPU 速度は、CPU Ratio (CPU 比率) に BCLK を乗じることによって決定されます。BCLK を上げると、内部の CPU クロック速度を上げられますが、他のコンポーネントのクロック速度にも影響をします。

## BCLK Advanced Setting (BCLK 詳細設定)

[Enter] を押して BCLK Advanced Setting (BCLK 詳細設定) を構成します。

## Intel Turbo Boost Technology

Intel Turbo Boost Technology により、オペレーティング システムが最高のパフォーマンス状態を要求したときに、プロセッサは基本動作周波数を超えて動作することができます。

構成オプション: [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

## Intel SpeedStep Technology

Intel SpeedStep Technology により、プロセッサは複数の周波数と電圧ポイントを切り替えて、省電力と放熱を向上させることができます。

## Intel Speed Shift Technology

Intel Speed Shift Technology のサポートを有効または無効にできます。有効にすると、CPPC v2 インターフェイスが公開され、ハードウェア制御の P ステートが可能になります。

Intel Turbo Boost Max Technology 3.0 (ITBMT 3.0) の最適なサポートを得るには、Intel Speed Shift Technology を有効にする必要があります。CPU が ITBMT 3.0 をサポートしていない場合でも、オプションはグレー表示されます。

構成オプション: [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

## Intel Turbo Boost Max Technology 3.0

Intel Turbo Boost Max Technology 3.0 (ITBMT 3.0) サポートを有効または無効にできます。無効にすると、\_CPC オブジェクトで最も遅いコアの最大比率が報告されます。ITBMT 3.0 機能をサポートするプロセッサには、最大比率が他のプロセッサ コアよりも高いプロセッサ コアが少なくとも 1 つ含まれています。

構成オプション: [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

## Boot Performance Mode (起動パフォーマンス モード)

デフォルトは Max Non-Turbo performance (最大非ターボ パフォーマンス) モードです。

OS ハンドオフまで CPU Flex-ratio (CPU フレックス比率) を維持します。Max Battery (最大バッテリー) モードでは、OS ハンドオフまで CPU 比率を x8 に設定します。このオプションは、BCLK オーバークロックに推奨されます。

構成オプション: [Max Battery (最大バッテリー)] [Max Non-Turbo Performance (最大非ターボ パフォーマンス)] [Turbo Performance (ターボ パフォーマンス)]

## BCLK Aware Adaptive Voltage (BCLK 認識適応電圧)

BCLK Aware Adaptive Voltage (BCLK 認識適応電圧) を有効または無効に設定できます。有効にすると、pcode は CPU V/F 曲線を計算するときに BCLK 周波数を認識します。

これは、BCLK OC が高電圧のオーバーライドを回避するのに理想的です。

構成オプション: [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

## Filter PLL (フィルター PLL)

GPI08 低 (0) を有効して、Filter PLL (フィルター PLL) を高 BCLK オーバークロック レベルで有効にします。

## UnderVolt Protection (低電圧保護)

UnderVolt Protection (低電圧保護) が有効になっている場合、ユーザーは OS ランタイムで低電圧をプログラムすることができません。デフォルトで有効にしておくことをお勧めします。

[Enabled (有効)] この項目は、BIOS の低電圧化を許可しますが、実行時の低電圧保護を有効にします。

[Disabled (無効)] 実行時に低電圧保護はありません。

## CPU Tj Max

CPU Tj Max を設定して、TCC Target Temperature (TCC ターゲット温度) を調整できます。

62 ~ 115 °C の範囲で Tj Max をサポートします。

## Current Limit Override (電流制限オーバーライド)

[Disabled (無効)] Current Limit Override (電流制限オーバーライド) なし。

[Enabled (有効)] この項目により、1/8 A 単位で電流制限をオーバーライドすることができます。

## Current Limit (電流制限)

この値は、任意の時点で許容される最大瞬時電流を表します。

## PL1 Power Limit (PL1 電力制限)

Package Power Limit 1 (パッケージ電力制限 1) をワット単位で構成できます。制限を超えると、一定時間後に CPU 比率が低下します。制限を低くすると CPU を保護して電力を節約できますが、制限を高くするとパフォーマンスが向上する可能性があります。

## PL1 Time Window (PL1 時間枠)

Long Duration Power Limit (長期電力制限) を超えた場合に CPU 比率が低下するまでの時間を構成できます。

## PL2 Power Limit (PL2 電力制限)

Package Power Limit 2 (パッケージ電力制限 2) をワット単位で設定できます。制限を超えると、すぐに CPU 比率が低下します。制限を低くすると CPU を保護して電力を節約できますが、制限を高くするとパフォーマンスが向上する可能性があります。

## PL2 Time Window (PL2 時間枠)

Long Duration Power Limit (長期電力制限) を超えた場合に CPU 比率が低下するまでの時間を構成できます。

## DRAM Configuration (CPU 構成)

### Memory Information (メモリ情報)

メモリ モジュールの Serial Presence Detect (SPD) および Intel Extreme Memory Profile (XMP) を参照できます。

### DRAM Timing Configuration (DRAM タイミング構成)

#### DRAM Frequency (DRAM 周波数)

[Auto (自動)] が選択されている場合、マザーボードは挿入されているメモリモジュールを検出し、適切な周波数を自動的に割り当てます。

#### Primary Timing (プライマリ タイミング)

##### CAS# Latency (tCL) (CAS# レイテンシー (tCL))

コラム アドレスのメモリへの送信から、データが応答までの時間。

##### RAS# to CAS# Delay (tRCD) (RAS# から CAS# までの遅延 (tRCD))

RAS# to CAS# Delay (RAS# から CAS# までの遅延): メモリの行を開いてから、そのうちの列へのアクセスまでに要するクロック サイクル数。

##### Row Precharge (tRP) (行プリチャージ (tRP))

プリチャージ コマンドを発行してから、次の行が開かれるまでに要するクロック サイクル数。

##### RAS# Active Time (tRAS) (RAS# アクティブ時間 (tRAS))

バンク アクティブ コマンドから、プリチャージ コマンドを発行するまでに要するクロック サイクル数。

#### Secondary Timing (セカンダリ タイミング)

##### Write Recovery Time (tWR) (書き込み回復時間 (tWR))

有効な書き込み操作の完了後、アクティブなバンクがプリチャージされるまでに必要な遅延量。

**Refresh Cycle Time 2 (tRFC) (リフレッシュ サイクル時間 2 (tRFC))**

Refresh コマンドから同じランクへの最初の Activate コマンドまでのクロック数。

**Refresh Cycle Time 2 (tRFC2) (リフレッシュ サイクル時間 2 (tRFC2))**

Refresh コマンドから同じランクへの最初の Activate コマンドまでのクロック数。

**Refresh Cycle Time per Bank (tRFCpb) (バンクごとのリフレッシュ サイクル時間 (tRFCpb))**

Refresh コマンド (バンクごと) から同じランクへの最初の Activate コマンドまでのクロック数。

**RAS to RAS Delay (tRRD\_L) (RAS から RAS までの遅延 (tRRD\_L))**

同じランクの異なるバンクで有効化された 2 つの行の間のクロック数。

**RAS to RAS Delay (tRRD\_S) (RAS から RAS までの遅延 (tRRD\_S))**

同じランクの異なるバンクで有効化された 2 つの行の間のクロック数。

**Read to Precharge (tRTP) (読み取りからプリチャージまで (tRTP))**

読み取りコマンドから、同じランクへの行のプリチャージ コマンドまでに挿入されたクロック数。

**Four Activate Window (tFAW) (4 つのアクティベート ウィンドウ (tFAW))**

4 つのアクティベートが同じランクで許可される時間枠。

**CAS Write Latency (tCWL) (CAS 書き込みレイテンシー (tCWL))**

CAS Write Latency (CAS 書き込みレイテンシー) を構成します。

**Third Timing (サード タイミング)****tREFI**

平均的な定期的な間隔でリフレッシュ サイクルを構成します。

**tREF Block (tREF ブロック)**

返された安全な信号をチェックする前に、スケジューラーをブロックする H クロックの数を構成します。

**tCKE**

Self-Refresh (セルフ リフレッシュ) モードに入ると、DDR4 が内部で最低 1 つのリフレッシュ コマンドを開始する時間を設定します。

**tRC**

最小アクティブからアクティブ / リフレッシュまでの時間を構成します。

## Fourth Timing ( フォースタイミング )

### tPRPDEN

tPRPDEN を構成します。tPRPDEN、tACTPDEN、tREFPDEN は、この単一の値を使用します。

### tXP

tXP を構成します。CKE が起動した後、新しいコマンドを送信できるようになるまでの CKE 低終了時間

### tRDPDEN

tRDPDEN を構成します。CASrd から CKE 低までの時間。

### tWRPDEN

tWRPDEN を構成します。CASwr から CKE 低までの時間。

### tSTAGGER\_Ref

tSTAGGER\_Ref を構成します。1 つのチャンネルに送信される更新コマンドのレートを制限します。

### tRDA

tRDA を構成します。AutoPrecharge を使用して CAS を読み取り、遅延を有効化します。

### tWRA

tWRA を構成します。AutoPrecharge を使用して CAS を書き込み、遅延を有効化します。

### tWRPRE

tWRPRE を構成します。CAS から Precharge までの遅延を書き込みます。

### tWRRDA

tWRRDA を構成します。AutoPrecharge 遅延を使用して、CAS の書き込みと読み取りを行います。

### tMRD

tMRD を構成します。DDR tMRD タイミング パラメーター。MRS から MRS への最小遅延 (DCLK 数)。

### tCPDED

tCPDED を構成します。これは tCPDED パラメーターであり、DDR5 でのみ使用されます。



### tCPED2SRX

tCPED2SRX を構成します。これは、クロック停止なしの RDIMM (RCD) の SR の最小時間です。SRE シングル CK CS# アサーションから RCD への SRX コマンドまでの時間。

### tCSSR

tCSSR を構成します。これは、UDIMM (RCD なし) の tCSL タイミング パラメーターと、RDIMM (RCD) の tCSSR タイミング パラメーターです。

### tSRX2SRX

tCPED2SRX を構成します。これは、クロック停止なしの RDIMM (RCD) の SR の最小時間、つまり SRE シングル CK CS# アサーションから RCD への SRX コマンドまでの時間です。

### tCSSR

tCSSR を構成します。これは、UDIMM (RCD なし) の tCSL タイミング パラメーターと、RDIMM (RCD) の tCSSR タイミング パラメーターです。

### tSRX2SRX

tSRX2SRX を構成します。これは、UDIMM (RCD なし) の tCSH\_SRexit タイミング パラメーターと、RDIMM (RCD) の tSRX2SRX タイミングパラメーターです。

### tSTAB

tSTAB を構成します。これは、RDIMM (RCD) の tCKACT + tSTABtiming パラメーターです。RCD DCK を開始する CS# のディアサートからの時間 (tCKACT) に、クロックが安定するまでの時間を加えた、RCD SRX コマンドを発行できる最も早い時間までの時間です。

### tXSDLL

tXSDLL を構成します。ロックされた DLL を必要とするコマンドに対して Self Refresh (セルフリフレッシュ) を終了します。

### tZQOPER

tZQOPER を構成します。通常動作の完全な校正時間。

### tMOD

tMOD を構成します。Mode Register Set (モード レジスター セット) コマンドの更新の遅延。

### tXSOFFSET

tXSOFFSET を構成します。このフィールドを Dclk 数の 1/2 に設定すると、10ns になります。

## Turn Around Timing (ターンアラウンドタイミング)

### TAT Training Value (TATトレーニング値)

#### tRRSG

tRRSG トレーニング値を構成します。Read CAS (読み取り CAS) から Read CAS (読み取り CAS) までの遅延、同じバンクグループ。tRRSG は tRRSR 以上である必要があります。

#### tWWSG

tWWSG トレーニング値を構成します。Write CAS (書き込み CAS) から Write CAS (書き込み CAS) までの遅延、同じバンクグループ。tWWSG は tWWSR 以上である必要があります。

#### tRWSG

tRWSG トレーニング値を構成します。Read CAS (読み取り CAS) から Write CAS (書き込み CAS) までの遅延、同じバンクグループ。tRWSG は tRWSR 以上である必要があります。

#### tWRSR

tWRSR トレーニング値を構成します。Write CAS (書き込み CAS) から Read CAS (読み取り CAS) までの遅延、同じバンクグループ。tWRSR は tWRSR 以上である必要があります。

#### tRRSR

tRRSR トレーニング値を構成します。Read CAS (読み取り CAS) から Read CAS (読み取り CAS) までの遅延、同じバンク、異なるバンクグループ。tRRSG は tRRSR 以上である必要があります。

#### tWWSR

tWWSR トレーニング値を構成します。Write CAS (書き込み CAS) から Write CAS (書き込み CAS) までの遅延、同じバンク、異なるバンクグループ。tWWSG は tWWSR 以上である必要があります。

#### tRWSR

tRWSR トレーニング値を構成します。Read CAS (読み取り CAS) から Write CAS (書き込み CAS) までの遅延、同じバンク、異なるバンクグループ。tRWSG は tRWSR 以上である必要があります。

#### tWRSR

tWRSR トレーニング値を構成します。Write CAS (書き込み CAS) から Read CAS (読み取り CAS) までの遅延、同じバンク、異なるバンクグループ。tWRSR は tWRSR 以上である必要があります。

**tRRDR**

tRRDR トレーニング値を構成します。Read CAS（読み取り CAS）から Read CAS（読み取り CAS）までの遅延、異なるランク。

**tWWDR**

tWWDR トレーニング値を構成します。Write CAS（書き込み CAS）から Write CAS（書き込み CAS）までの遅延、異なるランク。

**tRWDR**

tRWDR トレーニング値を構成します。Read CAS（読み取り CAS）から Write CAS（書き込み CAS）までの遅延、異なるランク。

**tWRDR**

tWRDR トレーニング値を構成します。Write CAS（書き込み CAS）から Read CAS（読み取り CAS）までの遅延、異なるランク。

**tRRDD**

tRRDD トレーニング値を構成します。Read CAS（読み取り CAS）から Read CAS（読み取り CAS）までの遅延、異なる DIMM。

**tWWDD**

tWWDD トレーニング値を構成します。Write CAS（書き込み CAS）から Write CAS（書き込み CAS）までの遅延、異なる DIMM。

**tRWDD**

tRWDD トレーニング値を構成します。Read CAS（読み取り CAS）から Write CAS（書き込み CAS）までの遅延、異なる DIMM。

**tWRDD**

tWRDD トレーニング値を構成します。Write CAS（書き込み CAS）から Read CAS（読み取り CAS）までの遅延、異なる DIMM。

**tRRDS**

tRRDS トレーニング値を構成します。Read CAS（読み取り CAS）から Read CAS（読み取り CAS）までの遅延、異なる SubRanks（サブランク）。

**tWWDS**

tWWDS トレーニング値を構成します。Write CAS（書き込み CAS）から Write CAS（書き込み CAS）までの遅延、異なる SubRanks（サブランク）。

## tRWDS

tRWDS トレーニング値を構成します。Read CAS（読み取り CAS）から Write CAS（書き込み CAS）までの遅延、異なる SubRanks（サブランク）。

## tWRDS

tWRDS トレーニング値を構成します。Write CAS（書き込み CAS）から Read CAS（読み取り CAS）までの遅延、異なる SubRanks（サブランク）。

## TAT Runtime Value (TAT ランタイム値)

### tRRSG

tRRSG ランタイム値を構成します。Read CAS（読み取り CAS）から Read CAS（読み取り CAS）までの遅延、同じバンクグループ。tRRSG は tRRSR 以上である必要があります。

### tWWSG

tWWSG ランタイム値を構成します。Write CAS（書き込み CAS）から Write CAS（書き込み CAS）までの遅延、同じバンクグループ。tWWSG は tWWSR 以上である必要があります。

### tRWSG

tRWSG ランタイム値を構成します。Read CAS（読み取り CAS）から Write CAS（書き込み CAS）までの遅延、同じバンクグループ。tRWSG は tRWSR 以上である必要があります。

### tWRSG

tWRSG ランタイム値を構成します。Write CAS（書き込み CAS）から Read CAS（読み取り CAS）までの遅延、同じバンクグループ。tWRSG は tWRSR 以上である必要があります。

### tRRSR

tRRSR ランタイム値を構成します。Read CAS（読み取り CAS）から Read CAS（読み取り CAS）までの遅延、同じランク、異なるバンクグループ。tRRSG は tRRSR 以上である必要があります。

### tWWSR

tWWSR ランタイム値を構成します。Write CAS（書き込み CAS）から Write CAS（書き込み CAS）までの遅延、同じランク、異なるバンクグループ。tWWSG は tWWSR 以上である必要があります。

### tRWSR

tRWSR ランタイム値を構成します。Read CAS（読み取り CAS）から Write CAS（書き込み CAS）までの遅延、同じランク、異なるバンクグループ。tRWSG は tRWSR

以上である必要があります。

### **tWRSR**

tWRSR ランタイム値を構成します。Write CAS（書き込み CAS）から Read CAS（読み取り CAS）までの遅延、同じランク、異なるバンクグループ。 tWRSR は tWRSR 以上である必要があります。

### **tRRDR**

tRRDR ランタイム値を構成します。Read CAS（読み取り CAS）から Read CAS（読み取り CAS）までの遅延、異なるランク。

### **tWWDR**

tWWDR ランタイム値を構成します。Write CAS（書き込み CAS）から Write CAS（書き込み CAS）までの遅延、異なるランク。

### **tRWDR**

tRWDR ランタイム値を構成します。Read CAS（読み取り CAS）から Write CAS（書き込み CAS）までの遅延、異なるランク。

### **tWRDR**

tWRDR ランタイム値を構成します。Write CAS（書き込み CAS）から Read CAS（読み取り CAS）までの遅延、異なるランク。

### **tRRDD**

tRRDD ランタイム値を構成します。Read CAS（読み取り CAS）から Read CAS（読み取り CAS）までの遅延、異なる DIMM。

### **tWWDD**

tWWDD ランタイム値を構成します。Write CAS（書き込み CAS）から Write CAS（書き込み CAS）までの遅延、異なる DIMM。

### **tRWDD**

tRWDD ランタイム値を構成します。Read CAS（読み取り CAS）から Write CAS（書き込み CAS）までの遅延、異なる DIMM。

### **tWRDD**

tWRDD ランタイム値を構成します。Write CAS（書き込み CAS）から Read CAS（読み取り CAS）までの遅延、異なる DIMM。

### **tRRDS**

tRRDS ランタイム値を構成します。Read CAS（読み取り CAS）から Read CAS（読み取り CAS）までの遅延、異なる SubRanks（サブランク）。

### **tWWDS**

---

tWWDs ランタイム値を構成します。Write CAS（書き込み CAS）から Write CAS（書き込み CAS）までの遅延、異なる SubRanks（サブランク）。

### tRWDS

tRWDS ランタイム値を構成します。Read CAS（読み取り CAS）から Write CAS（書き込み CAS）までの遅延、異なる SubRanks（サブランク）。

### tWRDS

tWRDS ランタイム値を構成します。Write CAS（書き込み CAS）から Read CAS（読み取り CAS）までの遅延、異なる SubRanks（サブランク）。

## ODT Setting (ODT 設定)

### ODT WR (A1)

ダイ終端抵抗器の WR のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

### ODT WR (A2)

ダイ終端抵抗器の WR のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

### ODT WR (B1)

ダイ終端抵抗器の WR のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

### ODT WR (B2)

ダイ終端抵抗器の WR のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

### ODT WR (C1)

ダイ終端抵抗器の WR のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

### ODT WR (C2)

ダイ終端抵抗器の WR のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled

(無効)]

### ODT WR (D1)

ダイ終端抵抗器の WR のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

### ODT WR (D2)

ダイ終端抵抗器の WR のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

### ODT NOM Rd (A1)

ダイ終端抵抗器の NOM Rd のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

### ODT NOM Rd (A2)

ダイ終端抵抗器の NOM Rd のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

### ODT NOM Rd (B1)

ダイ終端抵抗器の NOM Rd のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

### ODT NOM Rd (B2)

ダイ終端抵抗器の NOM Rd のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

### ODT NOM Rd (C1)

ダイ終端抵抗器の NOM Rd のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

## ODT NOM Rd (C2)

ダイ終端抵抗器の NOM Rd のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

## ODT NOM Rd (D1)

ダイ終端抵抗器の NOM Rd のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

## ODT NOM Rd (D2)

ダイ終端抵抗器の NOM Rd のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

## ODT NOM Wr (A1)

ダイ終端抵抗器の NOM Wr のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

## ODT NOM Wr (A2)

ダイ終端抵抗器の NOM Wr のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

## ODT NOM Wr (B1)

ダイ終端抵抗器の NOM Wr のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

## ODT NOM Wr (B2)

ダイ終端抵抗器の NOM Wr のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

## ODT NOM Wr (C1)

ダイ終端抵抗器の NOM Wr のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]



**ODT NOM Wr (C2)**

ダイ終端抵抗器の NOM Wr のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

**ODT NOM Wr (D1)**

ダイ終端抵抗器の NOM Wr のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

**ODT NOM Wr (D2)**

ダイ終端抵抗器の NOM Wr のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

**ODT PARK (A1)**

ダイ終端抵抗器の PARK のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

**ODT PARK (A2)**

ダイ終端抵抗器の PARK のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

**ODT PARK (B1)**

ダイ終端抵抗器の PARK のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

**ODT PARK (B2)**

ダイ終端抵抗器の PARK のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

**ODT PARK (C1)**

ダイ終端抵抗器の PARK のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

## ODT PARK (C2)

ダイ終端抵抗器の PARK のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

## ODT PARK (D1)

ダイ終端抵抗器の PARK のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

## ODT PARK (D2)

ダイ終端抵抗器の PARK のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

## ODT PARK DQS (A1)

ダイ終端抵抗器の PARK DQS のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

## ODT PARK DQS (A2)

ダイ終端抵抗器の PARK DQS のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

## ODT PARK DQS (B1)

ダイ終端抵抗器の PARK DQS のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

## ODT PARK DQS (B2)

ダイ終端抵抗器の PARK DQS のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

## ODT PARK DQS (C1)

ダイ終端抵抗器の PARK DQS のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

### ODT PARK DQS (C2)

ダイ終端抵抗器の PARK DQS のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

### ODT PARK DQS (D1)

ダイ終端抵抗器の PARK DQS のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

### ODT PARK DQS (D2)

ダイ終端抵抗器の PARK DQS のメモリを構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [34] [40] [48] [60] [80] [120] [240] [Disabled (無効)]

## Advanced Setting ( 詳細設定 )

### MRC Promote Warnings (MRC 昇格警告)

警告をシステム レベルに昇格させるかどうかを決定します。

### Promote Warnings ( 昇格警告 )

MRC 警告をシステム レベルに昇格させるかどうかを決定します。

### MemTest

[Enabled (有効)]: この項目は、通常起動中にメモリ テストを有効にします。

[Disabled (無効)]: この項目は、この機能を無効にします。

### MemTest Loops (MemTest ループ)

通常起動中のメモリ テスト ループの数。MemTest を無限に実行するには 0 に設定します。

### MemTest on Cold Fast Boot ( コールド高速起動時の MemTest)

有効にすると、コールド高速起動中にメモリ テストが実行されます。

### Attempt Fast Boot ( 高速起動の試行 )

有効にすると、メモリ参照コードの一部がスキップされ、起動速度が向上します。

## Fast Cold Boot ( 高速コールド起動の試行 )

有効にすると、コールド起動時のメモリ参照コードの一部がスキップされ、起動速度が向上します。

## Voltage Configuration ( 電圧構成 )

### Voltage Mode ( 電圧モード )

[OC Mode (OC モード)]: オーバークロック用のより広い範囲の電圧。

[Stable Mode (安定モード)]: 安定したシステムのためのより狭い範囲の電圧。

### CPU VCCIN Voltage (CPU VCCIN 電圧 )

外部電圧レギュレーターによるプロセッサ電圧を入力します。

### CPU VCCIN Load-Line Calibration (CPU VCCIN ロードライン校正 )

Load-Line (ロードライン) は Intel VRM Spec で定義されており、CPU の電源電圧に影響します。システムの負荷が大きいときに、CPU の電圧垂下を防ぐのを助けます。より高いロードライン (レベル 1) の校正では、電圧が高くなり、オーバークロック パフォーマンスが向上しますが、CPU と VRM の温度が上昇します。

構成オプション: [Auto (自動)] [Level 1 (レベル 1)] [Level 2 (レベル 2)]  
[Level 3 (レベル 3)] [Level 4 (レベル 4)] [Level 5 (レベル 5)]

\* [Level 1 (レベル 1)] および [Level 2 (レベル 2)] オプションは、マザーボードで使用する CPU に応じて表示されます。

### CPU FIVRA Voltage (CPU FIVRA 電圧 )

外部電圧レギュレーターによるプロセッサ電圧を入力します。

### CPU FIVRA Load-Line Calibration (CPU FIVRA ロードライン校正 )

CPU FIVRA ロードライン校正は、システムの負荷が高い場合に CPU FIVRA の電圧垂下を防ぐのに役立ちます。

構成オプション: [Auto (自動)] [Level 1 (レベル 1)] [Level 2 (レベル 2)]  
[Level 3 (レベル 3)] [Level 4 (レベル 4)] [Level 5 (レベル 5)]

\* [Level 1 (レベル 1)] および [Level 2 (レベル 2)] オプションは、マザーボードで使用する CPU に応じて表示されます。

### CPU VCCINFAON Voltage (CPU VCCINFAON 電圧 )

外部電圧レギュレーターによるプロセッサ電圧を入力します。

### CPU VCCINFAON Load-Line Calibration (CPU VCCINFAON ロードライン校正 )

CPU VCCINFAON ロードライン校正は、システムの負荷が高い場合に CPU VCCINFAON

の電圧垂下を防ぐのに役立ちます。

構成オプション： [Auto (自動)] [Level 1 (レベル 1)] [Level 2 (レベル 2)]  
[Level 3 (レベル 3)] [Level 4 (レベル 4)] [Level 5 (レベル 5)]

\* [Level 1 (レベル 1)] および [Level 2 (レベル 2)] オプションは、マザーボードで使用する CPU に応じて表示されます。

### CPU VCCFA\_EHV Voltage (CPU VCCFA\_EHV 電圧)

外部電圧レギュレーターによるプロセッサ電圧を入力します。

### CPU VCCD\_HV Voltage (CPU VCCD\_HV 電圧)

外部電圧レギュレーターによるプロセッサ電圧を入力します。

### CPU VCCD\_HV Load-Line Calibration (CPU VCCD\_HV ロードライン校正)

CPU VCCD\_HV ロードライン校正は、システムの負荷が高い場合に CPU VCCD\_HV の電圧垂下を防ぐのに役立ちます。

構成オプション： [Auto (自動)] [Level 1 (レベル 1)] [Level 2 (レベル 2)]  
[Level 3 (レベル 3)] [Level 4 (レベル 4)] [Level 5 (レベル 5)]

\* [Level 1 (レベル 1)] および [Level 2 (レベル 2)] オプションは、マザーボードで使用する CPU に応じて表示されます。

### VNN Voltage (VNN 電圧)

VNN の電圧を構成できます。

### +0.82V PCH Voltage (+0.82V PCH 電圧)

+0.82V PCH の電圧を構成できます。

### DDR5 PMIC Configuration (DDR5 PMIC 構成)

#### Secure Mode (セキュアモード)

PMIC セキュアモードを自動 / 有効 / 無効にすることができます。

### +0.82V PCH Voltage (+0.82V PCH 電圧)

+0.82V PCH の電圧を構成できます。

### +1.05 PCH Voltage (+1.05 PCH 電圧)

+1.05 PCH の電圧を構成できます。

### DDR5 PMIC Configuration (DDR5 PMIC 構成)

### PMIC Voltage Option (PMIC 電圧オプション)

[United (結合)] DIMM PMIC をまとめて調整できます。

[Separate (個別)] DIMM PMIC を個別に調整できます。

### VDD Voltage (VDD 電圧)

DRAM 側の PMIC によってサポートされる VDD Voltage (VDD 電圧) を構成できます。

VDD 出力は、ステップ サイズ 0.015V で PMIC ADC を介して測定できます。VDD 情報はメモリ SPD および XMP に含まれており、Memory Information (メモリ情報) ツールで確認できます。

### VDDQ Voltage (VDDQ 電圧)

DRAM 側の PMIC によってサポートされる VDDQ Voltage (VDDQ 電圧) を構成できます。VDDQ 出力は、ステップ サイズ 0.015V で PMIC ADC を介して測定できます。VDDQ 情報は、メモリ SPD および XMP に含まれています。Memory Information (メモリ情報) ツールで確認できます。

構成オプション: [JEDEC Standard (JEDEC 規格)] [OC Demand (OC デマンド)]

### VDDQ Voltage Range (VDDQ 電圧範囲)

JEDEC Standard (JEDEC 規格) の範囲は 0.800V ~ 1.435V です。OC Demand (OC デマンド) の範囲は 0.800V ~ 2.070V です。PMIC OC CAP が JEDEC PMIC の場合、OC Demand (OC デマンド) が適用されない場合があります。Memory Information (メモリ情報) ツールで確認できます。

構成オプション: [JEDEC Standard (JEDEC 規格)] [OC Demand (OC デマンド)]

### VPP Voltage (VPP 電圧)

DRAM 側の PMIC によってサポートされる VPP Voltage (VPP 電圧) を構成できます。

VPP 出力は、ステップ サイズ 0.015V で PMIC ADC を介して測定できます。VPP 情報は、メモリ SPD および XMP に含まれています。Memory Information (メモリ情報) ツールで確認できます。

## FIVR Configuration (FIVR 構成)

### Ring Voltage Mode (リング電圧モード)

Adaptive Voltage (適応電圧) モードと Override Voltage (オーバーライド電圧) モードを選択します。Override (オーバーライド) モードでは、選択した電圧が全体の動作周波数に適用されます。Adaptive (適応) モードでは電圧はターボモードでのみ補間されます。

構成オプション: [Adaptive (適応)] [Override (オーバーライド)]

### Extra Turbo Voltage (追加ターボ電圧)

Ring (リング) がターボモードで動作している間に適用される追加ターボ電圧を指定します。

### Ring Voltage Offset (リング電圧オフセット)

Ring (リング) ドメインに適用される Offset Voltage (オフセット電圧) を指定します。この電圧はミリボルト単位で指定されます。

### VCCCFN Voltage Override (VCCCFN 電圧オーバーライド)

VCCCFN ドメインに適用される Override Voltage (オーバーライド電圧) を指定します。

この電圧はミリボルト単位で指定されます。Mailbox MSR 0x150 (メールボックス MSR 0x150)、cmd 0x11 を使用します。範囲は 0 ~ 2050 mV です。タイプ 1200 は 1200 mV を意味し、デフォルト 0 はオーバーライドなしを意味します。

### VCCIO Voltage Override (VCCIO 電圧オーバーライド)

VCCIO ドメインに適用される Override Voltage (オーバーライド電圧) を指定します。この電圧はミリボルト単位で指定されます。Mailbox MSR 0x150 (メールボックス MSR 0x150)、cmd 0x11 を使用します。範囲は 0 ~ 2050 mV です。タイプ 1200 は 1200 mV を意味し、デフォルト 0 はオーバーライドなしを意味します。

### VCCMDFIA Voltage Override (VCCMDFIA 電圧オーバーライド)

VCCMDFIA ドメインに適用される Override Voltage (オーバーライド電圧) を指定します。

この電圧はミリボルト単位で指定されます。Mailbox MSR 0x150 (メールボックス MSR 0x150)、cmd 0x11 を使用します。範囲は 0 ~ 2050 mV です。タイプ 1200 は 1200 mV を意味し、デフォルト 0 はオーバーライドなしを意味します。

### VCCMDFI Voltage Override (VCCMDFI 電圧オーバーライド)

VCCMDFI ドメインに適用される Override Voltage (オーバーライド電圧) を指定します。この電圧はミリボルト単位で指定されます。Mailbox MSR 0x150 (メールボックス MSR 0x150)、cmd 0x11 を使用します。範囲は 0 ~ 2050 mV です。タイプ 1200 は 1200 mV を意味し、デフォルト 0 はオーバーライドなしを意味します。

## VCCDDRD Voltage Override (VCCDDRD 電圧オーバーライド)

VCCDDRD ドメインに適用される Override Voltage (オーバーライド電圧) を指定します。

この電圧はミリボルト単位で指定されます。Mailbox MSR 0x150 (メールボックス MSR 0x150)、cmd 0x11 を使用します。範囲は 0 ~ 2050 mV です。タイプ 1200 は 1200 mV を意味し、デフォルト 0 はオーバーライドなしを意味します。

## VCCDDRA Voltage Override (VCCDDRA 電圧オーバーライド)

VCCDDRA ドメインに適用される Override Voltage (オーバーライド電圧) を指定します。この電圧はミリボルト単位で指定されます。Mailbox MSR 0x150 (メールボックス MSR 0x150)、cmd 0x11 を使用します。範囲は 0 ~ 2050 mV です。タイプ 1200 は 1200 mV を意味し、デフォルト 0 はオーバーライドなしを意味します。

## Core PLL Voltage Offset (コア PLL 電圧オフセット)

PLL Voltage Offset (PLL 電圧オフセット) の範囲は 0 ~ 15 ビンで、各ピンは 15 mV です。

5 つ以上のピンを追加すると、極端なオーバークロック条件でこのドメイン周波数の範囲を広げるのに役立ちます。最適なピンはプロセッサごとに異なるため、ユーザーは自分のプロセッサに最適なピンを見つける必要があります。

## Ring PLL Voltage Offset (リング PLL 電圧オフセット)

PLL Voltage Offset (PLL 電圧オフセット) の範囲は 0 ~ 15 ビンで、各ピンは 15 mV です。

5 つ以上のピンを追加すると、極端なオーバークロック条件でこのドメイン周波数の範囲を広げるのに役立ちます。最適なピンはプロセッサごとに異なるため、ユーザーは自分のプロセッサに最適なピンを見つける必要があります。

## MC PLL Voltage Override (MC PLL 電圧オーバーライド)

PLL Voltage Offset (PLL 電圧オフセット) の範囲は 0 ~ 15 ビンで、各ピンは 15 mV です。

5 つ以上のピンを追加すると、極端なオーバークロック条件でこのドメイン周波数の範囲を広げるのに役立ちます。最適なピンはプロセッサごとに異なるため、ユーザーは自分のプロセッサに最適なピンを見つける必要があります。

## SVID/FIVR

### SVID Support (SVID サポート)

システムをオーバークロックする場合は、この項目を [Enabled (有効)] に設定します。この項目を無効にすると、CPU が外部電圧レギュレーターと通信するのを停止します。



### SVID Voltage Override (SVID 電圧オーバーライド)

この項目では、SVID Voltage Override (SVID 電圧オーバーライド) を設定できません。デフォルトでは、この項目は搭載されている CPU の標準値を取ります。

### FIVR Faults (FIVR 障害)

FIVR Faults (FIVR 障害) を無効にしてしきい値を上げ、CPU の過電流保護と過電圧保護をトリガーして、オーバークロック機能を向上させます。

### FIVR Efficiency Management (FIVR 効率管理)

省電力のために FIVR Efficiency Management (FIVR 効率管理) を有効にします。性能とオーバークロック機能を向上させるには、無効にします。

### Save User Default (ユーザー定義の保存)

設定をユーザー定義として保存するには、プロファイル名を入力し、〈Enter〉を押します。

### Load User Default (ユーザー定義の読み込み)

前回保存したユーザー定義を読み込みます。

### Save User UEFI Setup Profile to Disk (ユーザー UEFI セットアップ プロファイルをディスクに保存)

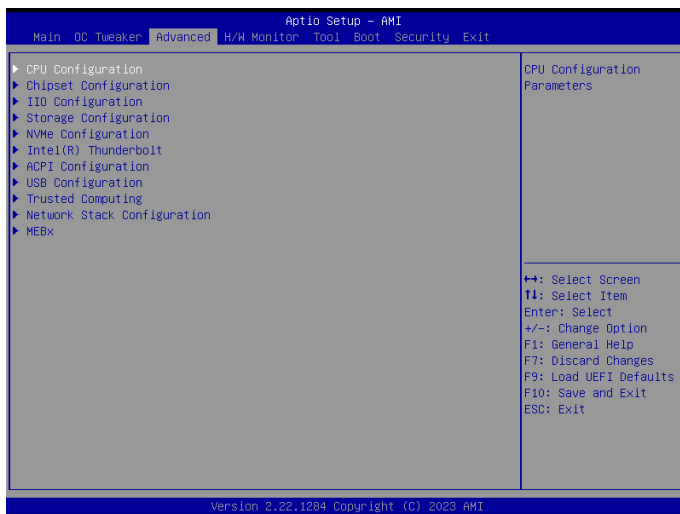
現在の UEFI 設定をユーザー プロファイルとしてディスクに保存します。

### Load User UEFI Setup Profile from Disk (ユーザー UEFI セットアップ プロファイルをディスクから読み込む)

以前に保存したプロファイルをディスクから読み込むことができます。

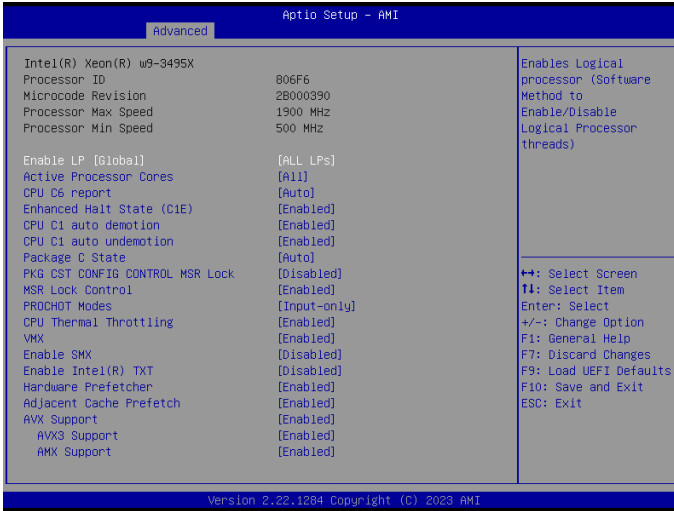
### 3.4 詳細画面

このセクションでは、以下の項目を設定できます：CPU Configuration（CPU 構成）、Chipset Configuration（チップセット構成）、IIO Configuration（IIO 構成）、Storage Configuration（ストレージ構成）、NVMe Configuration（NVMe 構成）、Intel(R) Thunderbolt、ACPI Configuration（ACPI 構成）、USB Configuration（USB 構成）、Trusted Computing（トラステッド コンピューティング）、Network Stack Configuration（ネットワーク スタック構成）、MEBx。



このセクションで誤った値を設定すると、システムの誤作動の原因になることがあります。

### 3.4.1 CPU 構成



#### Enable LP [Global] (LP [ グローバル ] の有効化)

論理プロセッサを有効にします（論理プロセッサスレッドを有効化 / 無効化するソフトウェア方式）。

#### Active Processor Cores (アクティブ プロセッサ コア)

各プロセッサ パッケージで有効にするコアの数を選択します。

#### CPU C6 State Support (CPU C6 ステート サポート)

消費電力を抑えるために C6 ディープスリープ状態を有効にします。

#### Enhanced Halt State (C1E) (拡張停止状態 (C1E))

消費電力を抑えるために Enhanced Halt State (C1E) (拡張停止状態 (C1E)) を有効にします。

#### Package C States Support (パッケージ C ステート サポート)

省電力のために、CPU, PCIe, Memory, Graphics C State Support (CPU, PCIe、メモリ、グラフィックス C ステート サポート) を有効にすることができます。

構成オプション: [Auto (自動)] [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

#### MSR Lock Control (MSR ロック制御)

Enable (有効化) - MSR 3Ah と CSR 80h がロックされます。ロックビットを削除するには、

---

Power Good (パワー グッド) リセットが必要です。

### CPU Thermal Throttling (CPU サーマルスロットリング)

CPU の内部熱制御メカニズムを有効にして、CPU が過熱しないようにします。

構成オプション： [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

### VMX

Vanderpool Technology を有効にします。再起動後に有効になります。

### Enable SMX (SMX の有効化)

Safer Mode Extension を有効にします。

### Enable Intel(R) TXT (Intel(R) TXT の有効化)

Intel(R) TXT を有効にします。

### Hardware Prefetcher (ハードウェアプリフェッチャー)

プロセッサのデータとコードを自動的にプリフェッチする Hardware Prefetcher (ハードウェアプリフェッチャー) 有効または無効にできます。パフォーマンスを向上させるには、この項目を有効にします。

構成オプション： [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

### Adjacent Cache Prefetch (隣接キャッシュプリフェッチ)

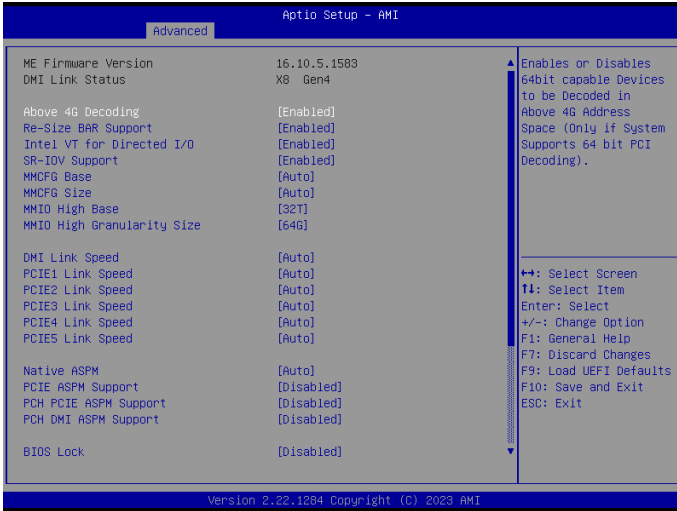
現在要求されているキャッシュラインを取得しながら、後続のキャッシュラインを自動的にプリフェッチする Adjacent Cache Prefetch (隣接キャッシュプリフェッチ) を有効または無効にできます。パフォーマンスを向上させるには、この項目を有効にします。

構成オプション： [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

### AVX Support (AVX サポート)

AVX/2/3 命令を有効 / 無効にします。

### 3.4.2 チップセット構成



#### Above 4G Decoding (4G を超えるデコーディング)

G MemoryMappedIO decoding (4G を超える MemoryMappedIO デコーディング) を有効または無効にできます。これは、Aperture Size (開口サイズ) が 2048MB に設定されている場合、自動的に無効になります。

構成オプション： [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

#### Re-Size BAR Support (BAR のサイズ変更のサポート)

システムにサイズ変更可能な BAR 対応の PCIe デバイスがある場合、このオプションを使用して、サイズ変更可能な BAR サポートを有効または無効にします (システムが 64 ビット PCI デコードをサポートしている場合のみ)。

#### Intel VT for Directed I/O (VT-d)

<Enter> を押すと、Intel Virtualization for Directed I/O (VT-d) Configuration メニューが表示されます。

#### SR-IOV Support (SR-IOV サポート)

システムに SR-IOV 対応 PCIe デバイスがある場合は、このオプションで Single Root IO Virtualization Support (シングルルート IO 仮想化サポート) を有効または無効にします。

構成オプション： [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

#### DMI Link Speed (DMI リンク速度)

DMI Slot Link Speed. (DMI スロット リンク速度) を構成できます。

構成オプション： [Gen1] [Gen2] [Gen3] [Gen4]

### PCIE1 Link Speed (PCIE1 リンク速度)

PCIE1 Slot Link Speed (PCIE1 スロット リンク速度) を構成できます。[Auto (自動)] モードは、オーバークロック用に最適化しています。

構成オプション: [Auto (自動)] [Gen1] [Gen2] [Gen3] [Gen4] [Gen5] (オプションは、マザーボードによって異なります。)

### PCIE2 Link Speed (PCIE2 リンク速度)

PCIE2 Slot Link Speed (PCIE2 スロット リンク速度) を構成できます。[Auto (自動)] モードは、オーバークロック用に最適化しています。

構成オプション: [Auto (自動)] [Gen1] [Gen2] [Gen3] [Gen4] [Gen5] (オプションは、マザーボードによって異なります。)

### PCIE3 Link Speed (PCIE3 リンク速度)

PCIE3 Slot Link Speed (PCIE3 スロット リンク速度) を構成できます。[Auto (自動)] モードは、オーバークロック用に最適化しています。

構成オプション: [Auto (自動)] [Gen1] [Gen2] [Gen3] [Gen4] (オプションは、マザーボードによって異なります。)

### PCIE4 Link Speed (PCIE4 リンク速度)

PCIE4 Slot Link Speed (PCIE4 スロット リンク速度) を構成できます。[Auto (自動)] モードは、オーバークロック用に最適化しています。

構成オプション: [Auto (自動)] [Gen1] [Gen2] [Gen3] [Gen4] [Gen5] (オプションは、マザーボードによって異なります。)

### PCIE5 Link Speed (PCIE5 リンク速度)

PCIE5 Slot Link Speed (PCIE5 スロット リンク速度) を構成できます。[Auto (自動)] モードは、オーバークロック用に最適化しています。

構成オプション: [Auto (自動)] [Gen1] [Gen2] [Gen3] [Gen4] (オプションは、マザーボードによって異なります。)

### Native ASPM (ネイティブ ASPM)

Windows OS は、デバイスの ASPM (Active State Power Management) サポートを制御します。

### PCIE ASPM Support (PCIE ASPM サポート)

このオプションは、すべての CPU ダウンストリーム デバイスの ASPM サポートを制御します。

構成オプション: [Disabled (無効)] [L0s] [L1] [L0sL1]

### PCH PCIE ASPM Support (PCH PCIE ASPM サポート)

このオプションは、すべての PCH ダウンストリーム デバイスの ASPM サポートを制御します。

構成オプション: [Disabled (無効)] [L1] [Auto (自動)]

### PCH DMI ASPM Support (PCH DMI ASPM サポート)

すべての PCH DMI デバイスの ASPM サポートを有効または無効にできます。

構成オプション: [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

### BIOS Lock (BIOS ロック)

PCH BIOS Lock Enable (PCH BIOS ロック有効化) 機能を有効/無効にします。フラッシュの System Management Mode (SMM) (システム管理モード (SMM)) 保護を確保するには、この項目を有効にします。

### Memory Encryption (TME) (メモリ暗号化 (TME))

Memory Encryption (TME) (メモリ暗号化 (TME)) を有効/無効にします。

### Onboard HD Audio (内蔵 HD オーディオ)

オンボード HD オーディオ コントローラーを有効または無効にできます。この項目を [Auto (自動)] に設定すると、オンボード HD が有効になり、サウンドカードが取り付けられたときに自動的に無効になります。

構成オプション: [Auto (自動)] [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

### Onboard WAN Device (オンボード WAN デバイス)

Onboard WAN Device (オンボード WAN デバイス) を有効または無効にできます。

構成オプション: [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

### Deep Sleep (ディープスリープ)

コンピューターのシャットダウン時に省電力のためにディープスリープモードを構成できます。システムの互換性と安定性を優先される場合、ディープスリープモードを無効にするようにお勧めします。

構成オプション: [Disabled (有効)] [Enabled in S5 (S5 で有効)] [Enabled in S4-S5 (S4 および S5 で有効)]

### Restore on AC/Power Loss (AC/電源損失で復元)

停電後の電源状態を選択できます。

[Power Off (電源オフ)] は、電源が回復したときに電源をオフのままにします。

[Power On (電源オン)] は、電源が回復したときにシステムが起動し始めます。

### Onboard Button LED (オンボード ボタン LED)

オンボードの Power (電源) ボタンと Reset (リセット) ボタンの LED を制御できます。

構成オプション: [On (オン)] [Off (オフ)]

### Onboard Debug Port LED (オンボード デバッグ ポート LED)

オンボード Dr. Debug LED を制御できます。

構成オプション: [On (オン)] [Off (オフ)]

### 3.4.3 IIO 構成



#### IOU1 (PCIe1)

選択したスロットの PCIe port Bifurcation (PCIe ポート分岐) を選択します。

#### IOU0 (PCIe2, PCIE5)

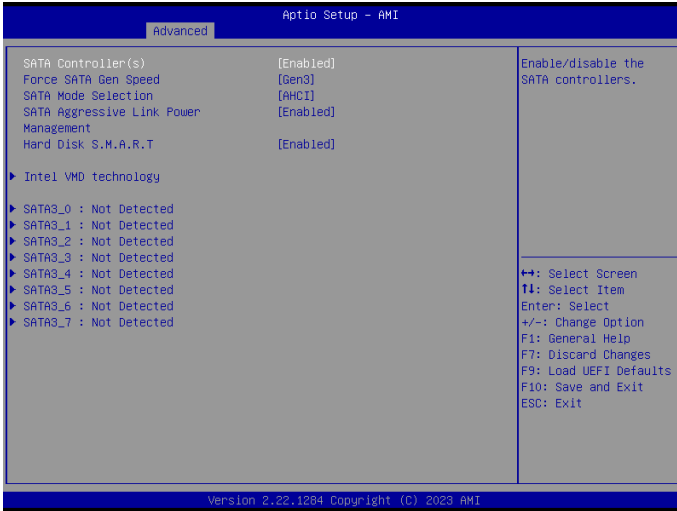
選択したスロットの PCIe port Bifurcation (PCIe ポート分岐) を選択します。

#### IOU1 (PCIe3)

選択したスロットの PCIe port Bifurcation (PCIe ポート分岐) を選択します。



### 3.4.4 ストレージ構成



#### SATA Controller(s) (SATA コントローラー)

SATA Controller (SATA コントローラー) を有効または無効にできます。

構成オプション： [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

#### Forced SATA Gen Speed (強制 SATA Gen 速度)

Forced SATA Gen Speed (強制 SATA Gen 速度) を構成できます。

#### SATA Mode Selection (SATA モード選択)

AHCI: パフォーマンスを向上させる新機能をサポートします。

構成オプション： [AHCI]

#### SATA Aggressive Link Power Management (SATA アグレッシブリンク電源管理)

SATA Aggressive Link Power Management (SATA アグレッシブリンク電源管理) により、

非アクティブな期間に SATA デバイスを低電力状態にして電力を節約できます。

AHCI モードでのみサポートされています。

構成オプション： [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

## Hard Disk S.M.A.R.T. (ハードディスク S.M.A.R.T.)

S.M.A.R.T は、Self Monitoring、Analysis、および Reporting Technology の略です。これは、信頼性のさまざまな指標を検出して報告する、コンピューターのハード ディスク ドライブの監視システムです。

構成オプション： [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

## VMD Configuration (VMD 構成)

[Enter] を押すと、VMD 構成の次の項目が表示されます。

### Enable VMD Controller (VMD コントローラーを有効にする)

VMD Controller (VMD コントローラー) を有効または無効にできます。

[Enabled (有効)] に設定すると、以下の項目が表示されます。

構成オプション： [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

### Enable VMD Global Mapping (VMD グローバル マッピングを有効にする)

VMD Global Mapping (VMD グローバル マッピング) を有効または無効にできます。

構成オプション： [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

### Map this Root Port under VMD (このルート ポートを VMD の下にマップする)

このルート ポートを VMD にマップまたはマップ解除できます。この項目は、「Enable VMD Global Mapping (VMD グローバル マッピングを有効にする)」が [Disabled (無効)] に設定されている場合に設定できます。

構成オプション： [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

### Root Port BDF details (ルート ポート BDF の詳細)

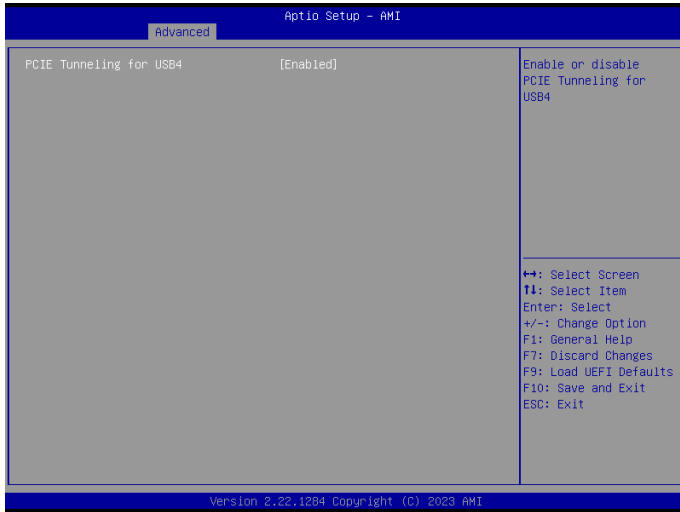
Root Port BDF details (ルート ポート BDF の詳細) を表示します。

### 3.4.5 NVMe 構成



NVMe Configuration (NVMe 構成) には、NVMe コントローラーとドライブの情報が表示されます。

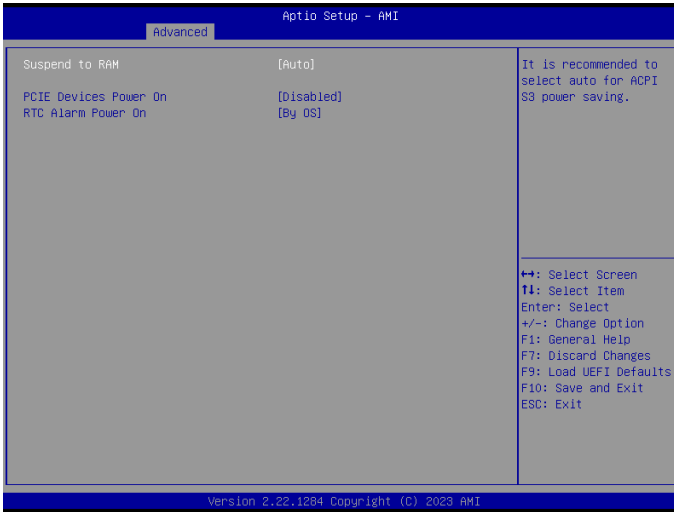
### 3.4.6 Intel(R) Thunderbolt



#### PCIE Tunneling for USB4 (USB4 の PCIE トンネリング)

PCIE Tunneling for USB4 (USB4 の PCIE トンネリング) を有効または無効にします

### 3.4.7 ACPI 構成



#### Suspend to RAM (RAM へのサスペンド)

ACPI サスペンド タイプ S1 の [Disabled (無効)] を選択できます。[Auto (自動)] として電力消費の少ない ACPI S3 を選択することをお勧めします。

構成オプション： [Auto (自動)] [Disabled (無効)]

#### PCIE Devices Power On (PCIe デバイスによる電源オン)

システムが PCIe デバイスによってウェイクアップできるようにし、Wake on LAN を有効にします。

構成オプション： [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

#### RTC Alarm Power On (RTC アラームによる電源オン)

システムがリアルタイム クロック アラームによってウェイクアップできるようになります。オペレーティング システムで処理できるようにするには、[By OS (OS による)] に設定します。

構成オプション： [Enabled (有効)] [Disabled (無効)] [By OS (OS による)]

## 3.4.8 USB 構成

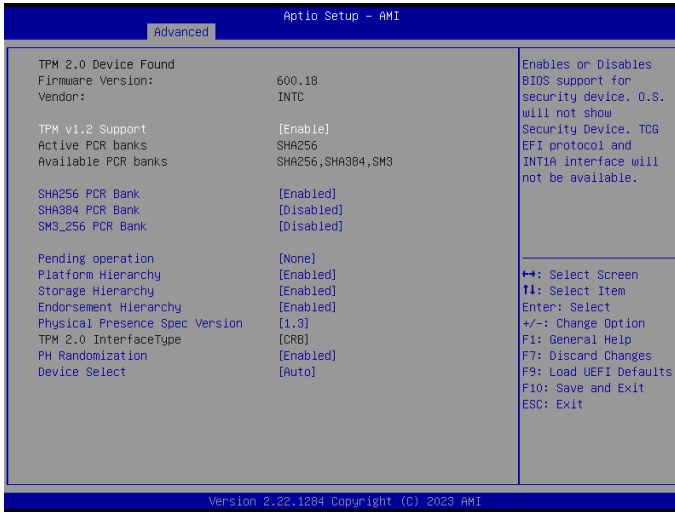


### XHCI Hand-off (XHCI ハンドオフ)

これは、XHCI ハンドオフがサポートされていない OS の回避策です。XHCI 所有権の変更は、XHCI ドライバーによって要求される必要があります。

構成オプション： [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

### 3.4.9 トラストド コンピューティング



注: オプションは接続されている TPM モジュールのバージョンにより異なります。

#### Security Device Support (セキュリティ デバイス サポート)

セキュリティ デバイスの BIOS サポートを有効または無効にできます。OS はセキュリティ デバイスを表示しません。TCG EFI プロトコルと INT1A インターフェースは使用できなくなります。

構成オプション: [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

#### Active PCR banks (アクティブ PCR バンク)

この項目により、Active PCR banks (アクティブ PCR バンク) を表示することができます。

#### Available PCR Banks (利用可能 PCR バンク)

この項目により、Available PCR Banks (利用可能 PCR バンク) を表示することができます。

#### SHA256 PCR Bank (SHA256 PCR バンク)

SHA256 PCR Bank (SHA256 PCR バンク) を有効または無効にできます。

構成オプション: [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

#### SHA384 PCR Bank (SHA384 PCR バンク)

SHA384 PCR Bank (SHA384 PCR バンク) を有効または無効にできます。

構成オプション： [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

### SM3\_256 PCR Bank (SM3\_256 PCR バンク)

SM3\_256 PCR Bank (SM3\_256 PCR バンク) を有効または無効にできます。

構成オプション： [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

### Pending Operation (保留中の操作)

セキュリティ デバイスの操作をスケジュールできます。

注： デバイスの状態を変更するために、コンピューターは再起動中に再起動しません。

構成オプション： [None (なし)] [TPM Clear (TPM クリア)]

### Platform Hierarchy (プラットフォーム階層)

Platform Hierarchy (プラットフォーム階層) を有効または無効にできます。

構成オプション： [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

### Storage Hierarchy (ストレージ階層)

Storage Hierarchy (ストレージ階層) を有効または無効にできます。

構成オプション： [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

### Endorsement Hierarchy (エンドースメント階層)

Endorsement Hierarchy (エンドースメント階層) を有効または無効にできます。

構成オプション： [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

### Physical Presence Spec Version (Physical Presence Spec バージョン)

PPI 仕様バージョン 1.2 または 1.3 をサポートするように OS に指示するには、この項目を選択します。一部の HCK テストはバージョン 1.3 をサポートしていない可能性があることに注意してください。

構成オプション： [1.2] [1.3]

### TPM 2.0 InterfaceType (TPM 2.0 インターフェース タイプ)

TPM 2.0 デバイスへの通信インターフェースを表示できます： CRB または ITS。

### Device Select (デバイス選択)

サポートする TPM デバイスを選択できます。

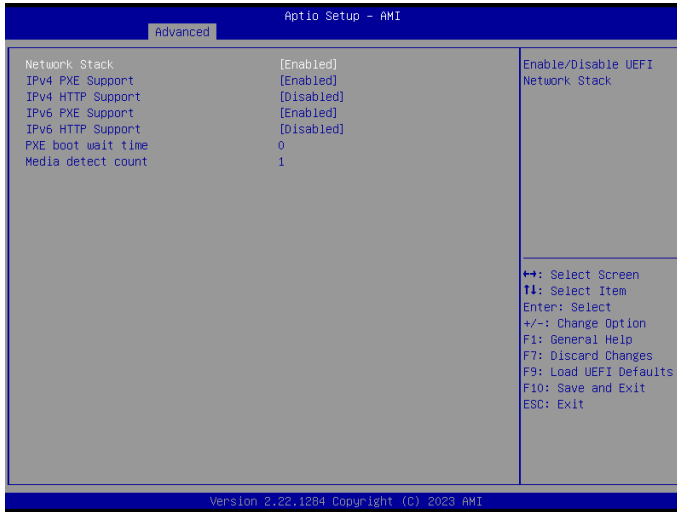
[TPM 1.2] は、サポートを TPM 1.2 デバイスに制限します。

[TPM 2.0] は、サポートを TPM 2.0 デバイスに制限します。



[Auto (自動)] は、TPM 1.2 デバイスと TPM 2.0 デバイスの両方をサポートし、デフォルトは TPM 2.0 デバイスに設定されています。TPM 2.0 デバイスが見つからない場合は、TPM 1.2 デバイスが列挙されます。

### 3.4.10 ネットワーク スタック構成



#### Network Stack ( ネットワーク スタック )

この項目を使用して、UEFI Network Stack (UEFI ネットワーク スタック) を有効または無効にします。

#### Ipv4 PXE Support (Ipv4 PXE サポート)

この項目を使用して、Ipv4 PXE Support (Ipv4 PXE サポート) を有効または無効にします。無効にすると、IPv4 PXE boot support (IPv4 PXE 起動サポート) は利用できなくなります。

#### Ipv4 HTTP Support (Ipv4 HTTP サポート)

この項目を使用して、Ipv4 HTTP Support (Ipv4 HTTP サポート) を有効または無効にします。無効にすると、IPv4 HTTP 起動サポートは利用できなくなります。

#### Ipv6 PXE Support (Ipv6 PXE サポート)

この項目を使用して、IPv6 PXE boot support (IPv6 PXE 起動サポート) を有効または無効にします。無効にすると、IPv6 PXE boot support (IPv6 PXE 起動サポート) は利用できなくなります。

#### Ipv6 HTTP Support (Ipv6 HTTP サポート)

この項目を使用して、IPv6 HTTP boot support (IPv6 HTTP 起動サポート) を有効または無効にします。無効にすると、IPv6 HTTP boot support (IPv6 HTTP 起動サポート) は利用できなくなります。

**PXE boot wait time (PXE 起動待機時間)**

ESC キーを押して PXE ブートを中止するまでの秒単位の待機時間。+/- または数値キーを使用して値を設定します。

**Media detect count (メディア検出数)**

メディアの存在が確認される回数。+/- または数値キーを使用して値を設定します。

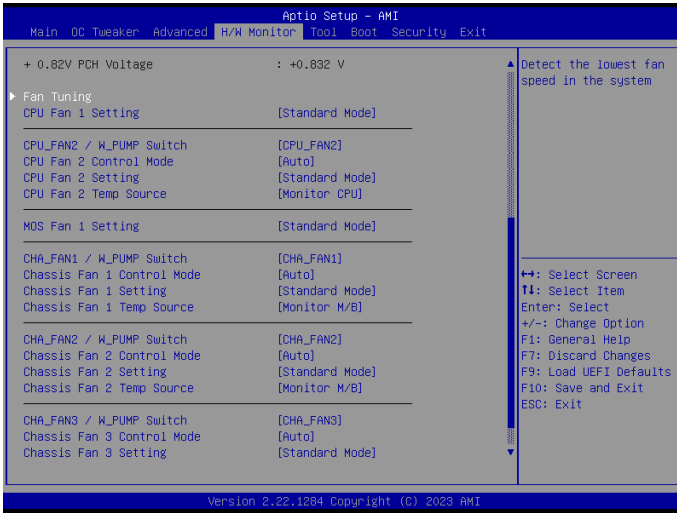
### 3.4.11 MEBx



このフォームセットには、MEBx を構成するためのフォームが含まれています。

### 3.5 ハードウェアヘルス イベント監視画面

このセクションでは、CPU 温度、マザーボード温度、ファン速度、および電圧などのパラメーターを含め、システムのハードウェアのステータスを監視できます。



注: オプションは、マザーボードの機能によって異なります。

#### Fan Tuning (ファン調整)

選択すると、BIOS はマザーボードに接続されるファンの最低速度を検出します。このプロセスが完了するまで数分かかります。

注: OS 内で適用される CAM 設定は、BIOS 内で行われた設定を上書きすることに注意してください。

#### CPU Fan 1 Setting (CPU ファン 1 設定)

CPU ファン 1 のファン モードを選択するか、[Customize (カスタマイズ)] を選択して 5 つの CPU 温度を設定し、各温度にそれぞれのファン速度を割り当てることができます。

構成オプション:

[Customize (カスタマイズ)] [Silent Mode (サイレント モード)] [Standard Mode (標準モード)] [Performance Mode (パフォーマンス モード)] [Full Speed (最高速度)]

#### CPU\_FAN2 / W\_PUMP Switch (CPU\_FAN2 / W\_PUMP スイッチ)

CPU\_Fan2 またはウォーターポンプ モードを切り替えることができます。

構成オプション： [CPU\_FAN2] [W\_PUMP]

## CPU Fan 2 Control Mode (CPU ファン 2 制御モード)

CPU ファン 2 の PWM モードまたは DC モードを選択できます。

[Auto (自動)] このモードを選択すると、取り付けられているファンのタイプを検出して、制御モードを自動的に切り替えます。

[DC Mode (DC モード)] 3 ピン ファンの場合はこのモードを選択します。

[PWM Mode (PWM モード)] 4 ピン ファンの場合はこのモードを選択します。

## CPU Fan 2 Setting (CPU ファン 2 設定)

CPU ファン 2 のファンモードを選択するか、[Customize (カスタマイズ)] を選択して 5 つの CPU 温度を設定し、各温度にそれぞれのファン速度を割り当てることができます。

構成オプション：

[Customize (カスタマイズ)] [Silent Mode (サイレント モード)] [Standard Mode (標準モード)] [Performance Mode (パフォーマンス モード)] [Full Speed (最高速度)]

## CPU Fan 2 Temp Source (CPU ファン 2 温度ソース)

CPU ファンのファン温度ソースを選択できます。

[Monitor M/B (マザーボードを監視する)] この項目を選択して、マザーボードを温度の測定対象として設定します。

[Monitor CPU (CPU を監視する)] この項目を選択して、CPU を温度の測定対象として設定します。

## MOS Fan1 Setting (MOS ファン 1 設定)

ファンのファンモードを選択するか、[Customize (カスタマイズ)] を選択して 5 つの CPU 温度を設定し、各温度にそれぞれのファン速度を割り当てることができます。

構成オプション：

[Customize (カスタマイズ)] [Silent Mode (サイレント モード)] [Standard Mode (標準モード)] [Performance Mode (パフォーマンス モード)] [Full Speed (最高速度)]

## CHA\_FAN1 / W\_PUMP Switch (CHA\_FAN1 / W\_PUMP スイッチ)

Chassis Fan 1 (シャーシ ファン 1) または Water Pump (ウォーター ポンプ) モードを選択できます。

構成オプション： [CHA\_FAN1] [W\_PUMP]

## Chassis Fan 1 Control Mode (シャーシファン 1 制御モード)

シャーシ ファン 1 の PWM モードまたは DC モードを選択できます。

[Auto (自動)] このモードを選択すると、取り付けられているファンのタイプを検出して、制御モードを自動的に切り替えます。

[DC Mode (DC モード)] 3 ピン ファンの場合はこのモードを選択します。

[PWM Mode (PWM モード)] 4 ピン ファンの場合はこのモードを選択します。

## Chassis Fan 1 Setting (シャーシファン 1 設定)

シャーシ ファン 1 のファンモードを選択するか、[Customize (カスタマイズ)] を選択して 5 つの CPU 温度を設定し、各温度にそれぞれのファン速度を割り当てることができます。

構成オプション：

[Customize (カスタマイズ)] [Silent Mode (サイレント モード)] [Standard Mode (標準モード)] [Performance Mode (パフォーマンス モード)] [Full Speed (最高速度)]

## Chassis Fan 1 Temp Source (シャーシファン 1 温度ソース)

シャーシ ファン 1 のファン温度ソースを選択できます。

[Monitor M/B (マザーボードを監視する)] この項目を選択して、マザーボードを温度の測定対象として設定します。

[Monitor CPU (CPU を監視する)] この項目を選択して、CPU を温度の測定対象として設定します。

## CHA\_FAN2 / W\_PUMP Switch (CHA\_FAN2 / W\_PUMP スイッチ)

Chassis Fan 2 (シャーシ ファン 2) または Water Pump (ウォーター ポンプ) モードを選択できます。

構成オプション： [CHA\_FAN2] [W\_PUMP]

## Chassis Fan 2 Control Mode (シャーシファン 2 制御モード)

シャーシ ファン 2 の PWM モードまたは DC モードを選択できます。

[Auto (自動)] このモードを選択すると、取り付けられているファンのタイプを検出して、制御モードを自動的に切り替えます。

[DC Mode (DC モード)] 3 ピン ファンの場合はこのモードを選択します。

[PWM Mode (PWM モード)] 4 ピン ファンの場合はこのモードを選択します。

## Chassis Fan 2 Setting (シャーシファン 2 設定)

シャーシ ファン 2 のファンモードを選択するか、[Customize (カスタマイズ)] を選択して 5 つの CPU 温度を設定し、各温度にそれぞれのファン速度を割り当てることができます。

構成オプション：

[Customize (カスタマイズ)] [Silent Mode (サイレント モード)] [Standard Mode (標準モード)] [Performance Mode (パフォーマンス モード)] [Full Speed (最高速度)]

### Chassis Fan 2 Temp Source (シャーシ ファン 2 温度ソース)

シャーシ ファン 2 のファン温度ソースを選択できます。

[Monitor M/B (マザーボードを監視する)] この項目を選択して、マザーボードを温度の測定対象として設定します。

[Monitor CPU (CPU を監視する)] この項目を選択して、CPU を温度の測定対象として設定します。

### Chassis Fan 3 Control Mode (シャーシ ファン 3 制御モード)

シャーシ ファン 3 の PWM モードまたは DC モードを選択できます。

[Auto (自動)] このモードを選択すると、取り付けられているファンのタイプを検出して、制御モードを自動的に切り替えます。

[DC Mode (DC モード)] 3 ピン ファンの場合はこのモードを選択します。

[PWM Mode (PWM モード)] 4 ピン ファンの場合はこのモードを選択します。

### Chassis Fan 3 Setting (シャーシ ファン 3 設定)

シャーシ ファン 3 のファンモードを選択するか、[Customize (カスタマイズ)] を選択して 5 つの CPU 温度を設定し、各温度にそれぞれのファン速度を割り当てることができます。

構成オプション：

[Customize (カスタマイズ)] [Silent Mode (サイレント モード)] [Standard Mode (標準モード)] [Performance Mode (パフォーマンス モード)] [Full Speed (最高速度)]

### Chassis Fan 3 Temp Source (シャーシ ファン 3 温度ソース)

シャーシ ファン 3 のファン温度ソースを選択できます。

[Monitor M/B (マザーボードを監視する)] この項目を選択して、マザーボードを温度の測定対象として設定します。



[Monitor CPU (CPU を監視する)] この項目を選択して、CPU を温度の測定対象として設定します。

### Case Open Feature ( ケース開機能 )

Case Open Feature ( ケース開機能 ) を有効または無効にして、シャーシカバーが取り外されているかどうかを検出します。

## 3.6 ツール



### Instant Flash (インスタントフラッシュ)

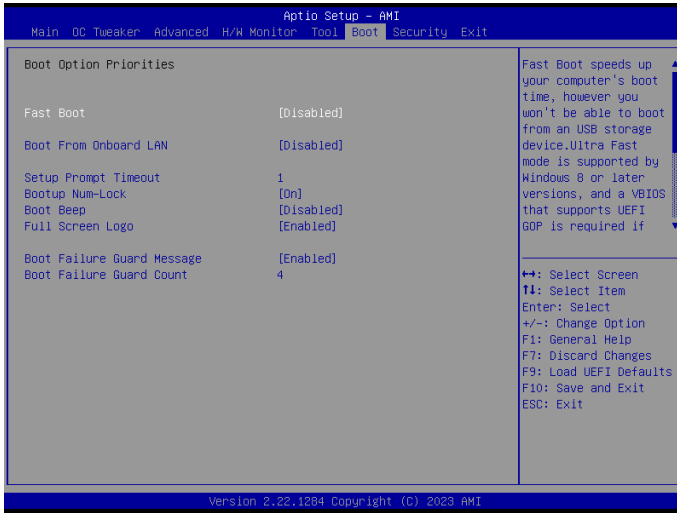
UEFI ファイルを USB ストレージ デバイスに保存し、Instant Flash（インスタントフラッシュ）を実行して UEFI を更新できます。USB ストレージ デバイスは、FAT32/16/12 ファイル システムである必要があります。

### Intel MEI Flash

この機能では、Intel MEI を更新およびフラッシュできます。BCLK や CPU のターボ比をオーバークロックできない場合は、この機能で修正できます。MEI Update & Flash（MEI アップデートとフラッシュ）には BIOS ROM ファイルが必要です。USB ストレージ デバイスは、FAT32/16/12 ファイル システムであることに注意してください。

## 3.7 起動画面

このセクションは、起動および起動優先順位の設定ができる、システム上のデバイスを表示します。



### Fast Boot (高速ブート)

Fast Boot (高速ブート) は、コンピューターの起動時間を短縮します。ただし、USB ストレージ デバイスから起動することはできません。超高速モードは UEFI 対応 OS 以降のバージョンでサポートされており、外部グラフィックス カードを使用している場合は、UEFI GOP をサポートする VBIOS が必要です。超高速モードの起動は非常に高速であるため、この UEFI セットアップ ユーティリティに入る唯一の方法は、CMOS をクリアするか、Windows で UEFI ユーティリティへの再起動を実行することであることを注意してください。

構成オプション：[Disabled (無効)] [Ultra Fast (超高速)]

### Boot From Onboard LAN (オンボード LAN から起動)

オンボード LAN によるシステムのウェイクアップを許可します。

構成オプション：[Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

### Setup Prompt Timeout (設定プロンプトのタイムアウト)

UEFI セットアップ ユーティリティを待機する秒数を構成できます。

構成オプション：[1] - [65535]

### Bootup Num-Lock ( 起動時の数値ロック )

システムの起動時に Num Lock をオンにするかオフにするかを選択できます。

構成オプション： [On ( オン )] [Off ( オフ )]

### Boot Beep ( 起動ビーブ音 )

システムの起動時に Boot Beep ( 起動ビーブ音 ) をオンにするかオフにするかを選択できます。ブザーが必要となりますのでご注意ください。

構成オプション： [Enabled ( 有効 )] [Disabled ( 無効 )]

### Full Screen Logo ( 全画面ロゴ )

[Enabled ( 有効 )] 起動ロゴを表示する場合に選択します。

[Disabled ( 無効 )] 通常の POST メッセージを表示するには、この項目を選択します。

### Boot Failure Guard Message ( 起動障害ガード メッセージ )

コンピューターが何度も起動に失敗した場合、システムは自動的にデフォルト設定を復元します。

構成オプション： [Enabled ( 有効 )] [Disabled ( 無効 )]

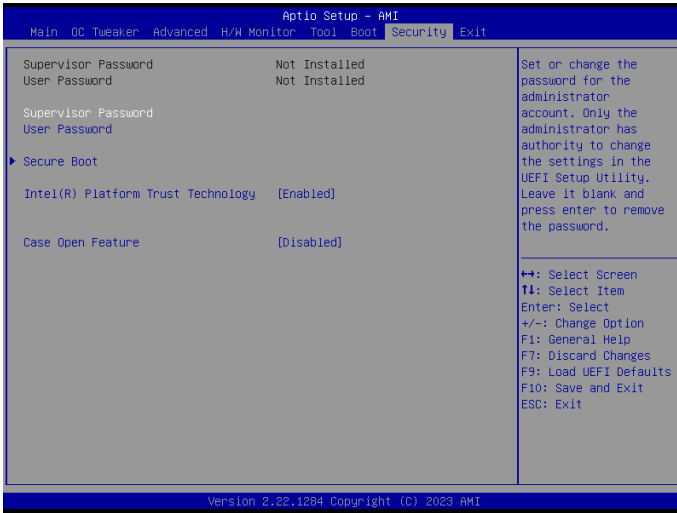
### Boot Failure Guard Message ( 起動障害ガード カウント )

システムが自動的にデフォルト設定を復元するまでの起動試行回数を設定できます

構成オプション： [2] - [250]

## 3.8 セキュリティ画面

このセクションでは、システムのスーパーバイザーまたはユーザーのパスワードを設定および変更できます。ユーザー パスワードを消去することもできます。



### Supervisor Password (スーパーバイザー パスワード)

管理者アカウントのパスワードを設定または変更します。管理者のみに、UEFI セットアップ ユーティリティの設定を変更する権限があります。パスワードを消去するには、空欄にして <Enter> を押します。

### User Password (ユーザー パスワード)

ユーザー アカウントのパスワードを設定または変更します。ユーザーは、UEFI セットアップ ユーティリティの設定を変更することはできません。パスワードを消去するには、空欄にして <Enter> を押します。

### Secure Boot (セキュア起動)

[Enter] を押して、Secure Boot (セキュア起動) 設定を構成します。この機能は、POST 中に不正なアクセスやマルウェアからシステムを保護します。

### Secure Boot Mode (セキュア起動 モード)

[Standard (標準)] この項目を選択すると、システムは BIOS データベースからセキュア起動キーを自動的に読み込みます。

[Custom (カスタム)] この項目を選択すると、セキュア起動ポリシー変数は、完全な認証なしで物理的に存在するユーザーによって構成されます。

## Install Default Secure Boot Keys ( デフォルトのセキュア起動キーをインストールする )

初めてセキュア起動を使用する場合は、デフォルトのセキュア起動キーをインストールしてください。

## Clear Secure Boot Keys ( セキュア起動キーのクリア )

この項目は、デフォルトのセキュア起動キーをロードする場合にのみ表示されます。この項目を使用して、すべてのデフォルトのセキュア起動キーをクリアしません。

## Key Management ( キー管理 )

この項目を使用すると、エキスパート ユーザーは完全な認証なしでセキュア起動ポリシー変数を変更できます。Secure Boot Mode ( セキュア起動モード ) を [Custom ( カスタム )] に設定した場合のみ表示されます。

## Factory Key Provision ( 工場キーのプロビジョン )

プラットフォームのリセット後、システムがセットアップ モードのときに、工場出荷時のデフォルトのセキュア起動キーをインストールできます。

## Install Default Secure Boot Keys ( デフォルトのセキュア起動キーをインストールする )

初めてセキュア起動を使用する場合は、デフォルトのセキュア起動キーをインストールしてください。

## Clear Secure Boot Keys ( セキュア起動キーのクリア )

この項目は、デフォルトのセキュア起動キーをロードする場合にのみ表示されます。この項目を使用して、すべてのデフォルトのセキュア起動キーをクリアしません。

## Enroll Efi Image (Efi イメージの登録)

Efi イメージをセキュア起動モードで実行できるようにします。PE イメージの SHA256 ハッシュ証明書を Authorized Signature Database (db) に登録します。

## Export Secure Boot variables ( セキュア起動変数のエクスポート )

セキュア起動変数の NVRAM コンテンツをファイル システム デバイスルート フォルダー内のファイルにコピーできます。

## Platform Key(PK) ( プラットフォームキー (PK))

工場出荷時のデフォルトを登録するか、ファイルから証明書をロードします。

1. Public Key Certificate ( 公開キー証明書 ):

- a) EFI\_SIGNATURE\_LIST
  - b) EFI\_CERT\_X509 (DER)
  - c) EFI\_CERT\_RSA2048 (bin)
  - d) EFI\_CERT\_SHAXXX
2. Authenticated UEFI Variable (認証済み UEFI 変数)
  3. EFI PE/COFF Image (SHA256) (EFI PE/COFF イメージ (SHA256))

Key Source (キー ソース): Factory (工場)、External (外部)、Mixed (混合)

### Key Exchange Keys (キー交換キー)

工場出荷時のデフォルトを登録するか、ファイルから証明書をロードします。

1. Public Key Certificate (公開キー証明書):
  - a) EFI\_SIGNATURE\_LIST
  - b) EFI\_CERT\_X509 (DER)
  - c) EFI\_CERT\_RSA2048 (bin)
  - d) EFI\_CERT\_SHAXXX
2. Authenticated UEFI Variable (認証済み UEFI 変数)
3. EFI PE/COFF Image (SHA256) (EFI PE/COFF イメージ (SHA256))

Key Source (キー ソース): Factory (工場)、External (外部)、Mixed (混合)

### Authorized Signatures (承認された署名)

工場出荷時のデフォルトを登録するか、ファイルから証明書をロードします。

1. Public Key Certificate (公開キー証明書):
  - a) EFI\_SIGNATURE\_LIST
  - b) EFI\_CERT\_X509 (DER)
  - c) EFI\_CERT\_RSA2048 (bin)
  - d) EFI\_CERT\_SHAXXX
2. Authenticated UEFI Variable (認証済み UEFI 変数)
3. EFI PE/COFF Image (SHA256) (EFI PE/COFF イメージ (SHA256))

Key Source (キー ソース): Factory (工場)、External (外部)、Mixed (混合)

### Forbidden Signatures (禁じられた署名)

---

工場出荷時のデフォルトを登録するか、ファイルから証明書をロードします。

1. Public Key Certificate (公開キー証明書):

- a) EFI\_SIGNATURE\_LIST
- b) EFI\_CERT\_X509 (DER)
- c) EFI\_CERT\_RSA2048 (bin)
- d) EFI\_CERT\_SHAXXX

2. Authenticated UEFI Variable (認証済み UEFI 変数)

3. EFI PE/COFF Image(SHA256) (EFI PE/COFF イメージ (SHA256))

Key Source (キー ソース): Factory (工場)、External (外部)、Mixed (混合)

### Authorized TimeStamps (承認されたタイムスタンプ)

工場出荷時のデフォルトを登録するか、ファイルから証明書をロードします。

1. Public Key Certificate (公開キー証明書):

- a) EFI\_SIGNATURE\_LIST
- b) EFI\_CERT\_X509 (DER)
- c) EFI\_CERT\_RSA2048 (bin)
- d) EFI\_CERT\_SHAXXX

2. Authenticated UEFI Variable (認証済み UEFI 変数)

3. EFI PE/COFF Image(SHA256) (EFI PE/COFF イメージ (SHA256))

Key Source (キー ソース): Factory (工場)、External (外部)、Mixed (混合)

### OsRecovery Signatures (OsRecovery 署名)

工場出荷時のデフォルトを登録するか、ファイルから証明書をロードします。

1. Public Key Certificate (公開キー証明書):

- a) EFI\_SIGNATURE\_LIST
- b) EFI\_CERT\_X509 (DER)
- c) EFI\_CERT\_RSA2048 (bin)
- d) EFI\_CERT\_SHAXXX

2. Authenticated UEFI Variable (認証済み UEFI 変数)

3. EFI PE/COFF Image(SHA256) (EFI PE/COFF イメージ (SHA256))



Key Source (キー ソース): Factory (工場)、External (外部)、Mixed (混合)

### Intel(R) Platform Trust Technology

Intel PTT 機能を有効または無効にできます。

[Enabled (有効)] ME で Intel PTT を有効にします。

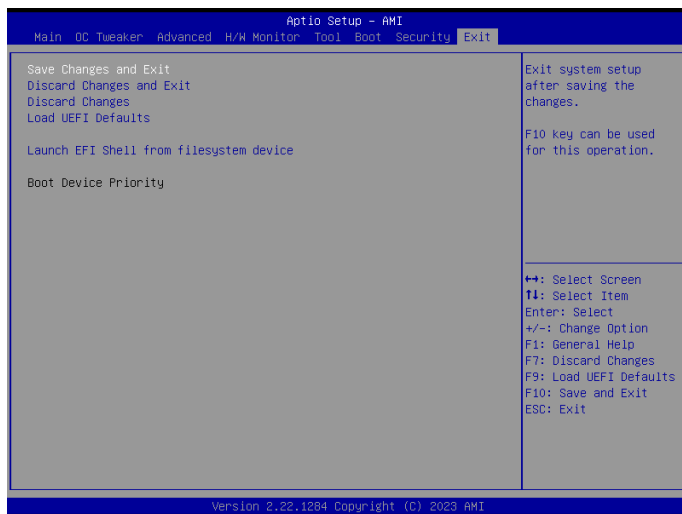
[Disabled (無効)] ME で Intel PTT を無効にします。Discrete TPM モジュールを使用します。

構成オプション: [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

### Case Open Feature ( ケース開機能 )

Case Open Feature ( ケース開機能 ) を有効または無効にして、シャーシカバーが取り外されているかどうかを検出します。

## 3.9 終了画面



### Save Changes and Exit (変更を保存して終了)

このオプションを選択すると、「Save configuration changes and exit setup? (設定の変更を保存して設定を終了しますか?)」というメッセージが表示されます。〈F10〉キーを押すか [Yes (はい)] を選択して変更を保存し、UEFI セットアップユーティリティを終了します。

### Discard Changes and Exit (変更を保存しないで終了)

このオプションを選択すると、「Discard changes and exit setup? (設定の変更を保存しないで終了しますか?)」というメッセージが表示されます。〈ESC〉キーを押すか [Yes (はい)] を選択して、変更を保存せずに UEFI セットアップユーティリティを終了します。

### Discard Changes (変更を破棄)

このオプションを選択すると、「Discard changes? (変更を破棄しますか?)」というメッセージが表示されます。〈F7〉キーを押すか、[Yes (はい)] を選択してすべての変更を破棄します。

### Load UEFI Defaults (UEFI デフォルトの読み込み)

すべてのオプションの UEFI デフォルト値を読み込むことができます。この操作には 〈F9〉キーをショートカットとして使用できます。

## Launch EFI Shell from filesystem device ( ファイルシステム デバイスから EFI シェルを起動 )

shellx64.efi をルート ディレクトリにコピーして、EFI シェルを起動できます。